実務経験のある教員等による授業科目一覧【**看護学科**】

授業科目	単位数	実務経験のある科目担当教員の氏名		
基礎看護学概論	1	寺﨑美保子	村山由起子	
共通基本技術Ⅰ	1	小野　香	杉山恵子	
共通基本技術Ⅱ	1	赤毛智美	小山京子	
日常生活援助技術Ⅰ	1	原田奈津子	西村直子	赤毛智美
日常生活援助技術Ⅱ	1	小野　香	武森勢津子	
フィジカルアセスメント	1	丸茂ひろみ		
診療に伴う援助技術	1	原田奈津子	小山京子	
臨床看護総論	1	寺﨑美保子	赤毛智美	
看護過程	1	小野　香	鈴木幸枝	赤毛智美
		丸茂ひろみ	杉山恵子	
看護研究	1	石井知亜子	西村直子	
基礎看護学実習Ⅰ	1	小野　香		
基礎看護学実習Ⅱ	2	小野　香		
成人看護学概論	1	村山由起子		
成人看護学方法論Ⅰ	1	鈴木幸枝		
成人看護学方法論Ⅱ	1	村山由起子		
成人看護学方法論Ⅲ	1	鈴木幸枝		
成人看護学方法論Ⅳ	1	丸茂ひろみ		
成人看護学演習	1	村山由起子	杉山恵子	
老年看護学概論	1	武森勢津子		
老年看護学方法論Ⅰ	1	伊藤元子		
老年看護学方法論Ⅱ	1	伊藤元子		
老年看護学演習	1	伊藤元子		
小児看護学概論	1	吉田ゆかり	石井知亜子	
小児看護学方法論Ⅱ	1	小山京子		
小児看護学演習	1	石井知亜子	小山京子	
母性看護学概論	1	山本佐知子		
母性看護学方法論Ⅰ	1	山本佐知子		
母性看護学方法論Ⅱ	1	山本佐知子		
母性看護学演習	1	原田奈津子	武森勢津子	
精神看護学概論	1	焼山和憲		
精神看護学方法論Ⅰ	1	焼山和憲		
精神看護学方法論Ⅱ	1	君波　学		
精神看護学演習	1	君波　学		
成人看護学実習Ⅰ	2	鈴木幸枝		
成人看護学実習Ⅱ	2	鈴木幸枝		
成人看護学実習Ⅲ	2	鈴木幸枝		
老年看護学実習Ⅰ	2	伊藤元子		
老年看護学実習Ⅱ	2	伊藤元子		
小児看護学実習Ⅰ	2	小山京子		

実務経験のある教員等による授業科目一覧**【看護学科】**

授業科目	単位数	実務経験のある科目担当教員の氏名		
母性看護学実習	2	原田奈津子		
精神看護学実習	2	君波　学		
在宅看護概論	1	福山由美子		
在宅看護方法論Ⅰ	1	福山由美子		
在宅看護方法論Ⅱ	1	福山由美子		
在宅看護演習	1	福山由美子	赤毛智美	
看護管理	1	寺﨑美保子		
医療安全	1	君波　学		
臨床看護の実践	1	西村直子		
災害看護と国際看護	1	君波　学	西村直子	
在宅看護論実習	2	福山由美子		
看護の統合実習	2	西村直子		
合　　計	**62**			

科目名	情報科学			担当教員	三原徹治		
開講年次	1年次	授業形態	講義・演習	時間数	30時間	単位	1単位
授業の概要	情報社会の中で多種多様な情報から，看護・医療にとって必要なデータの選択，情報収集の方法，収集した情報の処理方法，処理結果の解釈・分析および活用方法を学び，倫理観に基づいた情報管理能力を習得し，看護実践や研究に活用できる能力を養う．						
到達目標	・情報社会の一員として情報社会の背景や仕組み・技術などの基礎的事項を理解する． ・看護従事者として必要な情報処理，文書作成およびプレゼンテーション能力の基礎を習得する．						

回	授業内容	授業方法	自己学修課題（予習・復習）	取組時間	担当者
1	授業ガイダンス コンピュータ概説；コンピュータの歴史，PCの機能　他	講義と演習	PCの5大機能とは？	2h	三原
2	インターネット概説；インターネットの歴史・仕組み　他 情報科学の基礎；アナログとデジタル，双方向性　他	講義と演習	双方向性とは？	2h	三原
3	情報化社会；マルチメディア，インターネットビジネス， 情報セキュリティ，関連マナーと法律　他	講義と演習	情報セキュリティとは？	2h	三原
4	情報処理手法と結果の解釈 統計処理, SAマトリクス, CS/CEポートフォーリオ　他	講義と演習	SAマトリクスとは？	2h	三原
5	看護・医療と情報システム 看護に必要な情報検索とEBM	講義と演習	EBMとは？	2h	三原
6	表・グラフ作成の基礎（MS Excelの利用）(1) 使用可能データ・演算子，代入，参照	講義と演習	数式データとは？	2h	三原
7	表・グラフ作成の基礎（MS Excelの利用）(2) 関数の利用，ソーティング	講義と演習	Excel に準備されている関数	2h	三原
8	表・グラフ作成の基礎（MS Excelの利用）(3) 度数分布【Countif関数と棒グラフ】	講義と演習	Excel によるグラフ作成	2h	三原
9	文書作成の基礎（MS Wordの利用） 日本語FEP，ページフォーマット，図表等挿入　他	講義と演習	IMEパッドの利用	2h	三原
10	プレゼン資料作成の基礎（MS PowerPointの利用） スライド作成，アニメーション設定	講義と演習	効果的なアニメーション設定	2h	三原
11	プレゼンテーション演習(1) テーマ選定，情報検索	講義と演習	選定テーマの吟味	2h	三原
12	プレゼンテーション演習(2) 情報検索，プレゼンテーションファイルの作成	講義と演習	検索データのデータ処理	2h	三原
13	プレゼンテーション演習(3) プレゼンテーションファイルの作成	講義と演習	プレゼンテーションファイルの補完	2h	三原
14	プレゼンテーション演習(4) プレゼンテーション準備	講義と演習	プレゼン原稿の補完	2h	三原
15	プレゼンテーションコンテスト 授業まとめ	講義と演習	自分以外のプレゼンの良い所盗み	2h	三原

教科書	使用しない（プリント資料を利用）
参考書・参考文献	必要に応じて適宜紹介．
成績評価の方法	課題・小テスト50%，プレゼンテーションコンテスト20%，授業への熱意30%
学習へのアドバイス	現在もこれからもICT（情報＆コミュニケーション技術）抜きの社会生活は考えられません．その背景や基礎的な仕組みを知っておいて，得することはあっても損することはありません．過去の看護師国家試験でも関連問題が出題されています．PC に親しみながら，有意義で楽しい時間を一緒に過ごしましょう．

科目名	統計学			担当教員	杉野　元亮		
開講年次	2年次	授業形態	講義・演習	時間数	30時間	単位	1単位
到達目標	統計学の方法・考え方を学び、公衆衛生・医療に関する情報から人の健康についての判断に役立てる。将来、主体的に諸課題に取組むために必要な基本的知識・操作を習得する。						

単元名	学習内容	時間	方法
Ⅰ統計学の基礎	1　データと情報とは　2　データと分類 3　看護データ	2	講義 演習
Ⅱ保健統計	1　疾病分類　　2公的統計 3　生命表・生存分析	4	
Ⅲデータのまとめ方	1　単純集計　　2　クロス集計 3　度数分布表　4　グラフ表現	4	
Ⅳデータがもつ情報	1　基礎統計量　2　平均と位置 3　データのばらつき	4	
Ⅴデータ間の関係	1分割表　2相関分析　3回帰分析	4	
Ⅵ確率分布の基礎	1．正規分布　2．t分布　3．F分布	4	
Ⅶ点推定と区間推定	1　点推定　2　母平均の区間推定 3　母比率の検定	4	
Ⅷ仮説検定		4	
教科書	使用しない プリント資料配布		
副読本			
評価方法	出席状況、筆記試験、レポート等で総合的に評価する		
備考			

科目名	論理的思考			担当教員	島田　裕子		
開講年次	1年次	授業形態	講義・演習	時間数	30時間	単位	1単位
到達目標	看護の現場で不可欠な論理的な思考と表現力を身につける。						

単元名	学習内容	時間	方法
Ⅰ．論理学とは	1．論理学とは何か。論理的思考方法を考える。 2．論理的思考1　演繹的推論（推測と推論） 3．論理的思考2　演繹的推論（論証　前提は正しいか）	6	講義 演習
Ⅱ．論理と実践	1．情報を正確に捉える。メモの取り方・ノートの取り方 2．情報の探し方（インタビューによる取材） 3．情報の探し方	8	
Ⅲ．論理的文章を読み解く	1．論理的文章を読み解き要約をする。簡潔な説明の仕方。 2．論理的文章を読み解く。要約をする。見出しをつける。 3．事実と意見　及び文章の構成	8	
Ⅳ．　表現方法	1．文章を読み解き、根拠に支えられた意見を述べる。 2．レポートを書く手順。 3．レポートを書く。	8	

教科書	入門！論理学　中公新書 適宜プリントを配布
参考図書	論理学トレーニング101題　産業図書 日本語表現のレッスン　教育出版
評価方法	出席状況、課題、筆記試験、レポート等で総合的に評価する
備考	

科目名	心理学			担当教員	中山　浩行		
開講年次	１年次	授業形態	講義・演習	時間数	30 時間	単位	１単位
到達目標	人間の心の発達・行動の仕組みを理解し、対人・社会的視野で自己理解・他者理解を深め、かけがえのない人間の心理について感性高く受容できる能力とカウンセリングの理論と技法について学ぶ。						

単元名	学習内容	時間	方法
Ⅰ感覚・知覚の心理	１．感覚　２．知覚	３０	講義 演習
Ⅱ記憶の心理	１．記憶のしくみ　２．日常記憶　３．高齢者の記憶		
Ⅲ感情・動機の心理	１．感情・情緒　２．動機・欲求		
Ⅳ性格・知能の心理	１．性格に関する概念と用語 ２．性格研究の方法と性格理論 ３．パーソナリティの障害と成熟 ４．知的機能と創造性		
Ⅴ発達の心理	１．乳幼児期・児童期　２．青年期 ３．成人期　４．老年期		
Ⅵ社会・集団の心理	１．対人認知　２．社会的態度 ３．社会的スキル　４．集団の心理		
Ⅶ健康の心理と人間理解	１．患者の理解　２．看護職者の理解		
Ⅷ心理アセスメントと面接	１．心理アセスメント　２．面接の技法		
Ⅸカウンセリングと心理療法	１．カウンセリングと心理療法　２．援助のプロセス ３．精神分析的心理療法　４．クライエント中心療法 ５．行動療法　６．交流分析　７．グループ・アプローチ ８．家族療法		
Ⅹ行動する人間の理解	１．行動の科学　２．行動科学の医療場面での実践		
教科書	看護学生のための心理学　医学書院		
副読本			
評価方法	出席状況、筆記試験、レポート等で総合的に評価する		
備考			

科目名	倫理学			担当教員	荒木　正見		
開講年次	1年次	授業形態	講義	時間数	15時間	単位	1単位
到達目標	人が生きることのなかでの価値観について考えるとともに、すべての行動の根本に倫理的判断が基礎にあることを理解し、看護職において適切な判断ができるための基本となる知識を学ぶ。						

単元名	学習内容	時間	方法
Ⅰ医療における倫理	医療における倫理の意味を考える。全体的存在と個の因果的関係。危機管理における多様性の意義などの根本的問題を考える。	2	講義
Ⅱ人格発達論	人格発達論をもとに、人権の意味、差別と偏見などの非倫理的行為の原因を考える。	2	
Ⅲ生命倫理的諸問題	安楽死と尊厳死、遺伝子治療などの生命倫理的諸問題について倫理的立場から考える。	2	
Ⅳ医学的倫理の基本理解	医学的倫理の基本理解と看護師の倫理観、正義感などの歴史的意義を理解する。（ﾋﾎﾟｸﾗﾃｽの誓い、ﾅｲﾁﾝｹﾞｰﾙ、医の倫理、ｼﾞｭﾈｰﾌﾞ宣言・ﾍﾙｼﾝｷ宣言など）	2	
Ⅴ倫理的諸問題	倫理的問題事例を用いてｸﾞﾙｰﾌﾟで討議、発表しまとめる。（臓器移植、生前遺伝子検査による堕胎、ﾅﾁｽｶﾞｽ室、ﾊﾝｾﾝ氏病、高齢者、障害者の生活と支援など）	4	
Ⅵ社会病理の諸問題	社会病理としての児童および高齢者虐待、自殺者の意味、などについて理解し、自分の意見をまとめる。	2	
Ⅶまとめ　今後の課題	全体をまとめ今後の課題を考える。	2	
教科書	系統看護学講座　別巻　看護倫理　医学書院		
参考図書	丸山マサ美編著　医療倫理　第2版　中央法規		
評価方法	終了試験　60%　授業中のレポート・質問等受講姿勢 40%		
備考			

科目名	生活論			担当教員	長　和洋、静間　佳代子、 杉野　元亮		
開講年次	１年次	授業形態	講義・ ＧＷ・演習	時間数	30 時間	単位	１単位
到達目標	生活の中の衣・食・住の基礎知識を知り、人間にとっての生活の在り方が健康に影響することを学び、その人に応じた生活を整える意義を考える。また、生活を維持するために必要な家庭経済・消費問題を考え、これから学ぶ日常生活援助技術につながるようにする。						

単元名	学習内容	時間	方法
Ⅰ人間と衣生活 （長）	１．衣服の変遷と文化 諸外国と日本の衣服 気候と価値観と衣服 ２．ライフサイクルと衣服 成長・発達と衣服 構造・形態、機能、安全性、デザイン性、 衣服の汚れと洗濯方法 ３．人間にとっての衣生活	6	講義 ＧＷ 演習
Ⅱ人間と食生活 （静間）	１．食生活の変遷 日本、諸外国 ２．ライフサイクルと食生活 食生活評価 ３．人間にとっての食生活	8	
Ⅲ人間と住生活 （長）	１．住生活の変遷 ２．住宅の基本的知識 （１）　快適性と構造・材料 （２）　色彩、照明、インテリア ３．住生活の改善の基本的考え方と方法 ４．人間にとっての住生活	8	
Ⅳ家庭生活と家庭経済 （杉野）	１．近年の家族と家庭生活の変化 ２．家庭経済の構造 ３．消費者問題	8	
教科書	プリント配布		
副読本			
評価方法	終講時　客観式試験　100%		
備考			

科目名	人間関係論			担当教員	荒木　正見		
開講年次	１年次	授業形態	講義	時間数	30 時間	単位	１単位
到達目標	コミュニケーションや人間の在り方、人格発達論などを学び、自らの心の動きを理解し、他者理解のための知識を得て、自己抑制できる能力、他者との関わり方について理解する。						

単元名	学習内容	時間	方法
Ⅰ人間の存在と人間関係	１．人間関係のとらえ方の次元 ２．人間関係の基本的意義 ３．看護ケアや社会福祉援助における人間関係のとらえ方	３０	講義
Ⅱ人格発達論			
Ⅲ社会的相互作用と社会的役割	１．社会的相互作用 ２．社会的役割 ３．援助的役割を実現するためのガイドライン		
Ⅳコミュニケーション	１．コミュニケーションとは ２．コミュニケーションの障害 ３．IT 機器の普及に伴う効用と問題点		
Ⅴ人間関係の研究と応用	１．人間関係に関する研究 ２．看護ケア福祉に関する研究		
Ⅵ人間関係の向上へのスキル	１．体験学習による学習効果 ２．体験学習での基本姿勢 ３．体験学習の源流 ４．構成的な体験学習 ５．看護教育での体験学習の課題		
教科書	系統看護学講座　基礎分野　人間関係論　医学書院		
副読本			
評価方法	終講時　客観式試験　60%　授業中の課題・質問等受講姿勢　40%		
備考			

科目名	家族社会学			担当教員	中里　彰		
開講年次	1年次	授業形態	講義	時間数	30時間	単位	1単位
到達目標	基礎集団である家族の機能や構造、また現代における家族の現状について理解する。家族の構造・機能について考え、チーム医療の一翼を担う家族の在り方について考える。						

単元名	学習内容	時間	方法
Ⅰ家族とは	1．家族とは	2	講義
Ⅱ夫と妻のパートナーシップ（夫婦関係論）	2．結婚・配偶者選択過程 3．結婚の意味と総合的機能	4	
Ⅲ親と子と孫の絆（親子関係論）	4．親子関係の意味と機能	4	
Ⅳ家族と社会	5．家族の内部構造 6．家族の社会的構造 7．家族の機能と社会的支援	6	
Ⅴ患者家族と在宅ケア	8．患者家族の在り方 9．患者家族の支援	4	
Ⅵ家族支援のアプローチ	10．家族支援と子どもの問題 11．家族支援と老人の問題 12．家族支援と社会の問題 13．家族支援とQOL	8	
	14．まとめ	2	
教科書	系統看護学講座　別巻　家族看護学　医学書院		
副読本			
評価方法	終講時　客観式試験　60%　授業中の課題・質問等受講姿勢　40%		
備考			

科目名	人間発達論			担当教員	中山　浩行		
開講年次	１年次	授業形態	講義・ ＧＷ・演習	時間数	15 時間	単位	１単位
到達目標	人間のライフサイクルを理解し、各期の成長、発達の特徴、課題、問題発生の対処方法について理解する。						

単元名	学習内容	時間	方法
Ⅰ　障害人間発達論とは	１．　生涯人間発達論とは ２．　発達の定義 ３．　人間発達に関する諸理論 ４．　「生涯人間発達論」の新しい課題	4	講義 ＧＷ 演習
Ⅱ　乳児期	乳児期の心と身体	2	
Ⅲ　幼児前期	幼児前期の心と身体	2	
Ⅳ　幼児後期	幼児後期の心と身体		
Ⅴ　学童期	学童期の心と身体	2	
Ⅵ　思春期	思春期の心と身体		
Ⅶ　青年期	青年期の心と身体	2	
Ⅷ　成人期	成人期の心と身体	2	
Ⅸ　老年期	老年期の心と身体 ＊各発達の段階で発達課題・発達危機についてエリクソンの発達理論を概説する。	2	

教科書	生涯人間発達論　人間への深い理解と愛情を育むために　医学書院
副読本	
評価方法	出席状況、筆記試験、レポート等で総合的に評価する
備考	

科目名	生涯健康スポーツ論			担当教員	寺本　敦司		
開講年次	2年次	授業形態	講義・実技	時間数	30時間	単位	1単位
到達目標	生涯健康スポーツの基本、スポーツの社会的な意義を学び、健康づくりのためのスポーツのあり方や、身体に負担がかからず効率のよいトレーニング方法を学ぶ。						

単元名	学習内容	時間	方法
Ⅰ生涯スポーツ概論	スポーツと社会環境 これからのスポーツのあり方	１２	講義
Ⅱ社会保障制度	健康の定義 社会保障制度 健康づくりの歩み	4	講義
Ⅲスポーツ・コーチング学	コーチングとは	6	講義
Ⅳ子どもの身体とトレーニング	子どもの身体的特徴 子どもの体力の現状と課題	4	講義 実技
Ⅴ高齢者の身体とトレーニング	高齢者の身体的特徴 脳の老化と防止 各トレーニングと筋肉の関係	4	講義 実技

教科書	生涯スポーツトレーナー教本
副読本	必要に応じてプリント配付
評価方法	出席点・・・20%　定期試験・・・70%　レポート・・・10%
備考	

科目名	外国語 I			担当教員	廣田　恵美		
開講年次	1 年	授業形態	講義	時間数	30	単位	I
授業の概要	この授業では、英語による対応や情報の提供等に必要と考えられる専門用語や言い回しを、リスニングや英文作成などさまざまな課題を用いて、学習していきます。また知っておきたい文法項目や日常会話での言い回しなども紹介していきます。各 unit を 1 回~1.5 回の授業ペースで進めていく予定ですが、受講者の興味・関心および学力等に応じて、適宜内容を変更する可能性があります。						
到達目標	1. 患者・家族などとの英語によるコミュニケーション力の基礎を固める。 2. 医学の専門用語の英語を確実に覚える。 3. 日常的なやり取りで用いられる言い回しを覚える。						

回	授業内容	授業方法	自己学修課題（予習・復習）	取組時間	担当者
1	授業の概要説明および Unit 1 Asking Basic Questions 英語による基本的な質問の仕方	講義	次回学習予定箇所の予習	60 分以上	
2	Unit 2 A Patient's First Visit 問診表の記入方法の説明の仕方	講義	次回学習予定箇所の予習	60 分以上	
3	Unit 3 Where's Internal Medicine? 各診療科の名称及び道案内の基本表現	講義	授業内容の復習及び次回学習予定箇所の予習	90 分以上	
4	Unit 4 Admission to the Hospital 病院及び病室内の設備や備品を表す英語の学習	講義	授業内容の復習及び次回学習予定箇所の予習	90 分以上	
5	Unit 4 の続き、Unit 5 Giving Information 病院及び病室に関する情報の提供や規則の説明の仕方	講義	授業内容の復習及び次回学習予定箇所の予習	90 分以上	
6	Unit 5 の続き 名詞の数え方に関する学習	講義	授業内容の復習及び次回学習予定箇所の予習	90 分以上	

7	Unit 6 Symptoms さまざまな症状の表し方	講義	授業内容の復習及び次回学習予定箇所の予習	90分以上	
8	Unit 6 の続き、Unit 7 Injuries and Emergencies 身体各部の英語名称	講義	授業内容の復習及び次回学習予定箇所の予習	90分以上	
9	Unit 7 の続き 怪我や捻挫などに関する表現	講義	授業内容の復習及び次回学習予定箇所	90分以上	
１０	Unit 8 How Are You Feeling? 体調や容態などについて尋ねる	講義	授業内容の復習及び次回学習予定箇所の予習	90分以上	
１１	Unit 8 の続き、Unit 9 A Patient's Medical History 病歴やアレルギー等に関して尋ねる	講義	授業内容の復習及び次回学習予定箇所の予習	90分以上	
１２	Unit 9 の続き 動詞の時制の考え方	講義	授業内容の復習及び次回学習予定箇所の予習	90分以上	
１３	Unit 10 Medicine 薬の使用法に関する説明の仕方	講義	授業内容の復習及び次回学習予定箇所の予習	90分以上	
１４	Unit 10 の続き、Unit 11 I'm Going to Give You an IV 今から行う治療や処置に関する説明の仕方	講義	授業内容の復習及び次回学習予定箇所の予習	90分以上	
１５	Unit 11 の続き 今学期の授業総括	講義	授業内容の復習	60分以上	

教科書	「Speaking of Nursing」（南雲堂）
参考書・参考文献	
成績評価の方法	筆記試験(80%)、授業への取り組み（小テスト等含む）(20%)
学習へのアドバイス	必ず授業内容の予習・復習を行うこと。また授業時に辞書（紙または電子）を持ってくること。スマートフォンの辞書アプリの使用は認められません。

科目名	外国語Ⅱ			担当教員	李　呉小倍		
開講年次	2年次	授業形態	講義・演習	時間数	30時間	単位	1単位
到達目標	現代中国語の発音の理解や、平易な現代中国語文の読解や会話ができるようになる。また、異文化に関心を持つことができる。						

単元名	学習内容	時間	方法
Ⅰ発音	1．発音入門 1）発音の表記　2）声調 3）短母音　4）子音　5）複母音	6	講義 演習
Ⅱ自己紹介	1．自己紹介	2	
Ⅲ診察・治療	1．病院案内 2．問診確認 3．既往病歴 4．診断治療 5．骨折療養 6．問診処方 7．問題解決 8．予約通院 9．外科急診 10．入院生活 11．退院	10	
Ⅵ日常会話	1．日常会話 1）趣味　・会話	6	
Ⅴ異文化について	1．他の国の文化、習慣 グループで調べ発表	6	

教科書	中国語を学ぼう
副読本	
評価方法	出席率・・30%　課題提出・・10%　筆記試験 60%
備考	

科目名	保健体育			担当教員	松岡　紗也香		
開講年次	1年次	授業形態	講義・実技	時間数	15時間	単位	1単位
到達目標	スポーツを通じて、各運動領域における知識・技能を学び、運動の楽しさや喜びを仲間とともに感じ、スポーツが身体面だけでなく、精神面・社会面に及ぼす影響を考えることができる。また、自己の健康意識を高めることができる。						

単元名	学習内容	時間	方法
スポーツと健康	健康とスポーツ トレーニングの基礎 成人期のスポーツ活動 女性のスポーツとダイエット	8	講義
スポーツ実技	ストレッチ 身体づくり運動 球技スポーツ ラケットスポーツ ニュースポーツ	8	実技
教科書	必要に応じてプリント配布		
副読本	必要に応じてプリント配布		
評価方法	出席率・・30%　日常点・・50%　筆記試験20%		
備考	実技はシューズ・服装の準備		

科目名	解剖生理学Ⅰ			担当教員	中村　拓磨		
開講年次	１年次	授業形態	講義	時間数	30 時間	単位	１単位
到達目標	人間を生物学的存在としてとらえ、人体の構成について理解し、形態と機能を系統的にあわせて学び、看護実践のための基礎知識にする。						

単元名	学習内容	時間	方法
Ⅰ解剖生理学を学ぶための基礎知識（第１章）	１人体はどのようなものか ２人体の素材としての細胞・組織 ３構造と機能からみた人体	８	講義
Ⅱ栄養の消化と吸収（第２章）	１口・咽頭・食道の構造と機能 １）口の構造と機能　２）咽頭と食道の構造と機能 ２腹部消化管の構造と機能 １）胃の構造　２）胃の機能　３）小腸の構造 ４）栄養素の消化と吸収 ３膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能 １）膵臓　２）肝臓と胆嚢の構造　３）肝臓の機能 ４腹膜 １）腹膜と腸間膜　２）腹膜と内臓の位置関係 ３）胃の周辺の間膜	１０	
Ⅲ呼吸と血液の働き（第３章）	１呼吸器の構造 １）呼吸器の構成　２）上気道　３）下気道と肺 ４）胸膜 ２呼吸 １）内呼吸と外呼吸　２）呼吸器と呼吸運動 ３）呼吸器量　４）ガス交換とガスの運搬 ５）肺の循環と血流　６）呼吸運動の調節 ７）呼吸器系の病態生理 ３血液 １）血液の組織と機能　２）赤血球　３）白血球 ４）血小板　５）血漿タンパク質と赤血球沈降速度 ６）血液の凝固と繊維素溶解　７）血液型	１２	

教科書	系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能①解剖生理学　医学書院
副読本	
評価方法	出席状況、筆記試験、レポート等で総合的に評価する
備考	

科目名	解剖生理学Ⅱ			担当教員	瀬田　祐司		
開講年次	1年次	授業形態	講義	時間数	30時間	単位	1単位
到達目標	人間を生物学的存在としてとらえ、人体の構成について理解し、形態と機能を系統的にあわせて学び、看護実践のための基礎知識にする。						

単元名	学習内容	時間	方法
Ⅰ身体の支持と運動（第7章）	1骨格とはどのようなものか 2骨の連結　　1）関節　2）不動性の連結 3骨格筋 1）骨格筋の構造　2）骨格筋の作用　3）骨格筋の神経支配 4体幹の骨格と筋 1)脊柱　2)胸郭　3)背部の筋　4)胸部の筋　5)腹部の筋 5上肢の骨格と筋 1）上肢帯の骨格　2）自由上肢の骨格　3）上肢帯の筋群 4）上腕の筋群　5）手の筋群　6）手の筋群　7）上肢の運動 6下肢の骨格と筋 1）下肢帯と骨盤　2）自由下肢の骨格　3）下肢帯の筋群 4）大腿の筋群　5）下肢の筋　6）足の筋　7）下肢の運動 7頭頸部の骨格と筋　1）神経頭蓋（脳頭蓋） 2）内臓頭蓋（顔面頭蓋）　3）頭部の筋　4）頸部の筋 8筋の収縮　1）骨格筋の収縮機構 2）骨格筋収縮の種類と特性　3）不随意筋の収縮の特徴	１４	講義
Ⅱ情報の受容と処理（第8章）	1神経系の構造と機能 2脊髄と脳 1）脊髄の構造と機能　2）脳の構造と機能 3脊髄神経と脳神経 1）脊髄神経の構造と機能　2）脳神経の構造と機能 4脳の高次機能 1）脳波と睡眠　2）記憶　3）本能行動と情動行動 4）内臓調節機能　5）中枢神経系障害 5運動機能と下行伝導路 6感覚機能と上行伝導路 7眼の構造の視覚 1）眼球の構造　2）眼球の付属品　3）視覚 8耳の構造と聴覚・平衡覚 1）耳の構造　2）聴覚　3）平衡感覚 9味覚と嗅覚 10疼痛　1）痛みの分類　2）疼痛の発生機序	１６	

教科書	系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能①解剖生理学　医学書院
副読本	
評価方法	出席状況、筆記試験、レポート等で総合的に評価する
備考	

科目名	解剖生理学Ⅲ			担当教員	中村　拓磨		
開講年次	１年次	授業形態	講義	時間数	30 時間	単位	１単位
到達目標	人間を生物学的存在としてとらえ、人体の構成について理解し、形態と機能を系統的にあわせて学び、看護実践のための基礎知識にする。						

単元名	学習内容	時間	方法
Ⅰ血液の循環とその調整 （第４章）	１循環器系の構成 ２心臓の構造 １）心臓の位置と外形　２）心臓の４つの部屋と４つの弁 ３）心臓壁　４）心臓の血管と神経 ３心臓の拍出機能 １）心臓の興奮とその伝播　２）心電図　３）心臓の収縮 ４末梢循環系の構造 １）血管の構造　２）肺循環の血管　３）体循環の動脈 ４）体循環の動脈 ５血液の循環の調節 １）血圧（動脈圧）　２）血液の循環 ３）血圧・血流量の調節　４）微小循環 ５）循環器系の病態生理 ６リンパとリンパ管 １）リンパ管の構造　２）リンパの循環	１２	講義
Ⅱ体液の調整と尿の生成 （第５章）	１腎臓 １）腎臓の構造と機能　２）糸球体の構造と機能 ３）尿細管の構造と機能　４）傍糸球体装置 ５）クリアランスと糸球体濾過量 ６）腎臓から分泌される生理活性物質 ２排尿路 ３体液の調整	６	
Ⅲ内臓機能の調節 （第６章）	１自律神経による調節 １）自律神経の機能　２）自律神経の構造 ３）自律神経の神経伝達物質と受容体 ２内分泌による調節 １）内分泌とホルモン　２）ホルモンの化学構造と作用機序 ３全身の内分泌細胞 １）視床下部―下垂体系　２）甲状腺と副甲状腺　３）膵臓 ４）副腎　５）性腺　６）その他の内分泌腺 ４ホルモン分泌の調節 ５ホルモンによる調節の実際	１２	
教科書	系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能①解剖生理学　医学書院		
副読本			
評価方法	出席状況、筆記試験、レポート等で総合的に評価する		
備考			

科目名	解剖生理学Ⅳ			担当教員	瀬田　祐司		
開講年次	1年次	授業形態	講義・演習	時間数	30時間	単位	1単位
到達目標	人間を生物学的存在としてとらえ、人体の構成について理解し、形態と機能を系統的にあわせて学び、看護実践のための基礎知識にする。						

単元名	学習内容	時間	方法
Ⅰ外部環境からの防御（第9章）	1皮膚の構造と機能 1）皮膚の組織構造　2）皮膚の付属器 3）皮膚の血管と神経　4）皮膚の機能 2生体の防御機能 1）非特異的防御機構　2）特異的防御機構―免疫 3）生体防御の関連臓器 3体温とその調整 1）熱の出納　2）体温の分布と測定　3）体温調節 4）発熱　5）高体温と低体温	12	講義 演習
Ⅱ生殖・発生のしくみ（第10章）	1男性生殖器 1）精巣（睾丸）　2）精路（生殖路）と付属生殖腺 3）男性の外陰部　4）男性の生殖機能 2女性生殖器 1）卵巣　2）卵管・子宮・膣　3）女性の外陰部と会陰 4）乳腺　5）女性の生殖機能 3受精と胎児の発生 1）生殖細胞と受精　2）初期発生と着床 3）胎児と胎盤 4成長と老化 1）小児期の成長　2）老化	10	
Ⅲ体表からみた人体の構造（第11章）	1）体表から触知できる胸腹部内臓　2）体表から触知できる骨格部分　3）体表から触知できる大きな筋　4）体表から触知できる動脈　5）体表から到達できる静脈	4	
Ⅳ解剖見学	＊施設での解剖見学	4	
教科書	系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能①解剖生理学　医学書院		
副読本			
評価方法	出席状況、筆記試験、レポート等で総合的に評価する		
備考			

科目名	生化学			担当教員	古株　彰一郎・松原　琢磨		
開講年次	１年次	授業形態	講義	時間数	30 時間	単位	１単位
到達目標	人体の構成成分である化学物質の正常、その分布および代謝について学ぶ						

単元名	学習内容	時間	方法
Ⅰ生体を構成する物質	１生化学を学ぶための基礎知識 ２糖質 ３脂質 ４タンパク質 ５核酸 ６水と無機質 ７血液と尿 ８ホルモンと生理活性物質	３０	講義
Ⅱ生体内の物質代謝	１代謝のあらまし ２酵素 ３ビタミンと補酵素 ４糖質代謝 ５脂質代謝 ６タンパク質代謝 ７核酸代謝 ８ポルフィリン代謝 ９代謝の異常		
Ⅲ遺伝情報とその発見	１遺伝情報 ２先天代謝異常		

教科書	系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能②　生化学　医学書院
副読本	
評価方法	出席状況、筆記試験、レポート等で総合的に評価する
備考	

科目名	微生物学			担当教員	有吉　渉		
開講年次	1年次	授業形態	講義	時間数	30時間	単位	1単位
到達目標	人間の疾病をひき起こす微生物の特徴と生体におよぼす影響を理解し、その対応について学ぶ						

単元名	学習内容	時間	方法
Ⅰ微生物学の基礎	1微生物と微生物学 　1）微生物学の性質　2）微生物学と人間 　3）微生物学の対象と目的　4）微生物学の歩み 2細菌の性質 　1）細菌の形態と特徴　2）培養環境と栄養 　3）細菌の遺伝　4）細菌の分類　5）常在細菌叢 3真菌の性質 　1）真菌の形態と特徴　2）真菌の増殖 　3）真菌の分類と命名法　4）栄養と培養 4原虫の性質 5ウイルスの性質	6	講義
Ⅱ感染とその防御	1感染と感染症 2感染に対する生体防御機構 3感染症の予防 4感染症の検査と診断 5感染症の治療 6感染症の現状と対策	１０	
Ⅲ主な病原微生物	1病原細菌と細菌感染症 　1）グラム陽性球菌　2）グラム陰性球菌 　3）グラム陰性好気性桿菌　4）グラム陰性通生菌 　5）カンピロバクター属　6）グラム陽性桿菌 　7）抗酸菌と放線菌　8）嫌気性菌　9）スピロヘータ 　10）マイコプラズマ　11）リケッチア目　12）クラミジア 2病原真菌と真菌感染症 　1）深在性真菌症をおこす真菌　2）深部皮膚真菌症を 　　おこす真菌　3）表在性真菌症をおこす真菌 3病原原虫と原虫感染症 4主なウイルスとウイルス感染症 　1）ＤＮＡウイルス　2）ＲＮＡウイルス	１４	
教科書	系統看護学講座　専門基礎分野　疾病の成り立ちと回復の促進④　微生物学 医学書院		
副読本			
評価方法	出席状況、筆記試験、レポート等で総合的に評価する		
備考			

科目名	病理学			担当教員	松尾　拡		
開講年次	１年次	授業形態	講義	時間数	30 時間	単位	１単位
到達目標	人体組織における病的状態の原因・発生機序・経過について学び、疾病における形態と機能の変化について理解する。						

単元名	学習内容	時間	方法
Ⅰ病理学総論	１病理学で学ぶこと １）看護と病理学　２）病気の原因　３）疾病の分類 ２先天異常と遺伝子異常 １）先天異常とは　２）遺伝子異常　３）遺伝性疾患 ４）染色体異常による疾患　５）胎児の障害　等 ３代謝障害 １）細胞の損傷と適応　２）物質沈着　３）脂質代謝障害と疾患　４）タンパク質代謝障害と疾患　５）糖代謝障害と疾患　６）その他の代謝障害と疾患 ４循環障害 １）局所性の循環障害　２）全身性の循環障害 ３）リンパの循環障害 ５炎症と免疫、膠原病 １）炎症　２）炎症の各型　３）免疫　４）アレルギーと自己免疫疾患、膠原病　５）移植と免疫 ６感染症 １）病原体と感染症　２）宿主の防御機構　３）おもな病原体と感染症　４）感染症の治療　５）感染症の予防 ７腫瘍 １）腫瘍の定義と分類　２）腫瘍の発生病理　３）悪性腫瘍の転移と進行度　４）腫瘍の診断と治療　５)腫瘍の統計 ８老化と死	１４	講義
Ⅱ病理学各論	１循環器系の疾患 ２血液・造血器系の疾患 ３呼吸器系の疾患 ４消化器系の疾患 ５腎・泌尿器・生殖器系および乳腺の疾患 ６内分泌系の疾患 ７脳・神経・筋肉系の疾患 ８骨・関節系の疾患 ９耳・眼・皮膚の疾患	１６	
教科書	系統看護学講座　専門基礎分野　疾病の成り立ちと回復の促進①　病理学　医学書院		
副読本			
評価方法	出席状況、筆記試験、レポート等で総合的に評価する		
備考			

科目名	疾病と治療Ⅰ			担当教員	宇田津　明彦		
開講年次	1年次	授業形態	講義	時間数	30時間	単位	1単位
到達目標	消化器系、代謝・内分泌系の病態（原因・発生機序・経過）及び治療について理解する。						

単元名	学習内容	時間	方法
Ⅰ消化器疾患とその治療	1消化器の構造と機能	2	講義
	2症状・徴候とその病態生理	2	
	3検査と治療・処置		
	4疾患の理解	2	
	1）食道の疾患 ①食道がん　②食道アカラシア　③胃食道逆流症		
	2）胃・十二指腸疾患 ①機能性胃腸炎 ②胃炎 ③胃・十二指腸潰瘍 ④胃がん	2	
	3）腸および腹膜疾患 ①過敏性腸症候群　②腸炎　③腹膜炎　④虫垂炎 ⑤ヘルニア　⑥イレウス　⑦腸内寄生虫疾患 ⑧消化管憩室 ⑨腸管ポリープ ⑩結腸がん・直腸がん	2	
	5）肝臓・胆嚢の疾患 ①肝炎　②肝硬変賞　③門脈圧亢進症　④肝不全 ⑤肝臓がん　⑥胆石症　⑦急性胆のう炎および胆管炎 ⑧胆管がん　⑨胆嚢がん	2	
	5）膵臓の疾患　①膵炎　②膵がん	2	
	6）急性腹症	2	
	7）腹部外傷	2	
Ⅱ内分泌・代謝とその治療	1内分泌・代謝器官の構造と機能	2	
	2検査と治療・処置	2	
	3疾患の理解		
	1）内分泌疾患 ①視床下部―下垂体前葉系疾患　②視床下部―下垂体後葉系疾患　③甲状腺疾患　④副甲状腺疾患 ⑤副腎疾患　⑥性腺疾患　⑦消化管ホルモン疾患 ⑧多発性内分泌腫瘍賞　⑨内分泌疾患の救急治療	4	
	2）代謝疾患 ①糖尿病　②脂質異常症　③肥満症とメタボリックシンドローム　④尿酸代謝異常	4	

教科書	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学⑤　消化器　医学書院 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学⑥　代謝・内分泌　医学書院
副読本	
評価方法	出席状況、筆記試験、レポート等で総合的に評価する
備考	

科目名	疾病と治療Ⅱ			担当教員	宇田津　明彦		
開講年次	1年次	授業形態	講義	時間数	30時間	単位	1単位
到達目標	呼吸器系、循環器系の病態（原因・発生機序・経過）及び治療・検査について理解する。						

単元名	学習内容	時間	方法
Ⅰ呼吸器疾患とその治療	1呼吸器の構造と機能 2症状とその病態生理 3検査と治療・処置 4疾患の理解 1）感染症　①かぜと急性気管支炎 ②インフルエンザ　③肺炎　④結核 2）間質性肺疾患　①原因不明の間質性肺炎　②サルコイドーシス　③好酸球性肺疾患　④過敏性肺炎 ⑤塵肺　⑥膠原病に伴う肺病変　⑦薬剤性肺炎 3）気道疾患 ①気管支喘息 ②気管支拡張症 ③慢性閉塞性肺疾患 4）肺血栓塞栓症 5）呼吸不全　①呼吸不全の病態生理 ②急性呼吸促迫症候群　③肺性心 6）呼吸調節に関する疾患 7）肺腫瘍　①良性腫瘍　②悪性腫瘍 8）肺・肺血管の形成異常 9）胸膜・縦隔・横隔膜の疾患 10）肺移植　11）胸部外傷	2 2 2 10	講義
Ⅱ循環器疾患とその治療	1循環器の構造と機能 2症状とその病態生理 3検査と治療・処置 4疾患の理解 1）虚血性心疾患　①労作性狭心症　②急性冠症候群 ③冠状動脈硬化の危険因子 2）心不全　①病態とその分類　②診断　③治療 3）血圧異常　①正常洞調律　②除脈性不整脈 ③頻脈性不整脈　④不整脈の治療 4）不整脈　5）弁膜症　6）心膜炎　7）心筋疾患 8）肺性心　9）先天性心疾患　10）動脈系疾患 11）静脈系疾患　12）リンパ系疾患	2 2 2 8	
教科書	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学②　呼吸器　医学書院 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学③　循環器　医学書院		
副読本	新・病態生理できった内科学2　呼吸器疾患（第3版）　医学教育出版社		
評価方法	出席状況、筆記試験、レポート等で総合的に評価する		
備考			

科目名	疾病と治療Ⅲ			担当教員	宇田津　明彦・山田　眞人		
開講年次	1年次	授業形態	講義	時間数	30時間	単位	1単位
到達目標	1．腎、泌尿器、生殖器系の疾病の病態（原因・発生機序・経過）及び治療・検査について理解する。 2．感覚器系の疾病の病態（原因・発生機序・経過）及び治療・検査について理解する。						

単元名	学習内容	時間	方法
Ⅰ腎・泌尿器疾患とその治療の理解（宇田津）	1腎・泌尿器系の構造と機能 2症状とその病態生理　　3検査と治療・処置 4疾患の理解 腎不全と慢性腎臓病、原発性糸球体腎炎、全身性疾患による腎障害、腎血管性病変、尿細管機能異常、尿路・性器の感染症、尿路の通過障害と機能障害、尿路損傷および異物、尿路結石症、尿路・性器の腫瘍、男性不妊症、その他	2 2 8	講義
Ⅱ女性生殖器（乳房）疾患とその治療の理解（山田）	1女性生殖器（乳房）の構造と機能 2乳房の疾患の理解 1）乳がん　2）乳腺良性腫瘍　3）炎症　など	6	
Ⅲ眼疾患とその治療の理解（宇田津）	1眼の構造と機能　2症状とその病態生理 3検査と治療 4疾患の理解 1）機能障害　2）部位別の疾患　3）外傷 4）全身疾患との関連	4	
Ⅳ耳鼻咽喉疾患とその治療の理解（宇田津）	1耳鼻咽喉・頸部の構造と機能 2症状とその病態生理　　3検査と治療 4疾患の理解 1）耳疾患　2）鼻疾患　3）口腔・咽喉頭疾患 4）気道・食道・頸部疾患と音声・言語障害	4	
Ⅴ皮膚疾患とその治療の理解（宇田津）	1皮膚の構造と機能 2症状とその病態生理 3検査と治療・処置 4疾患の理解 1）表在性皮膚疾患　2）真皮・皮下脂肪織および皮膚付属器の疾患　3）脈管系の異常による皮膚疾患　4）物理・化学的皮膚障害　5）腫瘍および色素異常症　6）感染症	4	
教科書	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学⑧　腎・泌尿器　医学書院 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学⑨　女性生殖器 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学⑬　眼　医学書院 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学⑭　耳鼻咽喉　医学書院 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学⑫　皮膚　医学書院		
副読本			
評価方法	出席状況、筆記試験、レポート等で総合的に評価する		
備考			

科目名	疾病と治療Ⅳ			担当教員	名和田雅夫・宇田津明彦・中村拓磨		
開講年次	1年次	授業形態	講義	時間数	30時間	単位	1単位
到達目標	1．血液・造血、アレルギー、免疫系の疾病の病態（原因・発生機序・経過）及び治療・検査について理解する 2．歯・口腔の疾病の病態（原因・発生機序・経過）及び治療・検査について理解する。						

単元名	学習内容	時間	方法
Ⅰ血液・造血器の疾患とその治療の理解 （名和田）	1血液の生理と造血のしくみ 2検査・診断と症候・病態生理 3疾患と治療の理解 1）赤血球系の異常 2）白血球系の異常 3）造血器腫瘍 4）出血性疾患	2 2 6	講義
Ⅱアレルギー・膠原病疾患とその治療の理解 （宇田津）	1免疫のしくみとアレルギー　2検査と治療 3症状と疾患の理解 1）気管支喘息 2）アレルギー性鼻炎 3）アトピー性皮膚炎 4）薬物のアレルギー 5）アナフィラキシー 6）蕁麻疹 7）接触皮膚炎 8）食物アレルギー 4自己免疫疾患とその機序 1）症状とその病態生理 2）検査と治療 3）疾患の理解 ①関節リュウマチ　②全身性エリテマトーデス ③全身性強皮症　④多発性筋炎	4 2 4 4	
Ⅲ歯・口腔疾患とその治療の理解 （中村）	1歯・口腔の構造と機能 2症状とその病態生理 3検査と治療・処置 4疾患の理解 1）歯の異常と疾患　2）歯周組織の疾患　他	6	
教科書	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学④　血液・造血器　医学書院 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学⑪　アレルギー・膠原病・感染症　医学書院 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学⑮　歯・口腔　医学書院		
副読本			
評価方法	出席状況、筆記試験、レポート等で総合的に評価する		
備考			

科目名	疾病と治療Ⅴ			担当教員	宗前　匠・山田　眞人		
開講年次	1年次	授業形態	講義	時間数	30時間	単位	1単位
到達目標	1．脳・神経系の疾病の病態（原因・発生機序・経過）及び治療・検査について理解する 2．運動器系の疾病の病態（原因・発生機序・経過）及び治療・検査について理解する						

単元名	学習内容	時間	方法
Ⅰ脳・神経疾患とその治療の理解 （宗前）	1脳・神経系の構造と機能 2症状とその病態生理 1）脳神経障害とは 2）おもな症状とその病態生理 ①意識障害　②高次脳機能障害　③運動機能障害 ④間隔機能障害　⑤反射性運動の障害 ⑥頭蓋内圧亢進症状と脳ヘルニア ⑦バイタルサインの変化　⑧髄膜刺激症状　⑨頭痛 3検査・診断と治療処置 4疾患の理解 1）脳疾患 ①脳血管疾患　②脳腫瘍　③脳の感染症　④頭部外傷 ⑤脳脊髄液の異常 2）脊髄疾患　3）末梢神経症　4）神経・筋疾患 5）脱髄・変性疾患　6）脳・神経系の感染症 7）中毒　8）てんかん　9）認知症 10）内科疾患に伴う神経疾患	18	講義
Ⅱ運動器疾患とその治療の理解 （山田）	1運動器の構造と機能 2症状とその病態生理 3診断・検査と治療・処置 4疾患の理解 1）外傷性（外因性）の運動器疾患 ①骨折　②脱臼　③捻挫および打撲　④神経の損傷 ⑤筋・腱・靭帯などの損傷 2）内因性の運動器疾患 ①先天性疾患　②骨・関節の炎症性疾患 ③骨腫瘍および軟部腫瘍　④代謝性骨疾患 ⑤筋および腱の疾患　⑥神経の疾患 ⑦上肢および上肢帯の疾患　⑧脊椎の疾患 ⑨下肢および下肢帯の疾患　⑩運動器不安定症	12	
教科書	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学⑦　脳・神経　医学書院 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学⑩　運動器　医学書院		
副読本			
評価方法	出席状況、筆記試験、レポート等で総合的に評価する		
備考			

科目名	栄養学			担当教員	静間　佳代子		
開講年次	１年次	授業形態	講義・演習	時間数	15 時間	単位	１単位
到達目標	人間にとっての栄養の意義と、食の健康との関わりおよび食事療法について学ぶ						

単元名	学習内容	時間	方法
Ⅰ人間栄養学と看護	１栄養と栄養素　２栄養学の歴史 ３食物栄養学から人間栄養学へ　４保健と栄養 ５医療と栄養学　６食事療法の進歩と医療制度 ７看護と栄養	2	講義 演習
Ⅱ栄養状態の評価・判定	１栄養状態の評価・判定の定義と目的 ２栄養状態の評価・判定法		
Ⅲエネルギー代謝	１食品のエネルギー　２体内のエネルギー ３エネルギー代謝の測定　４エネルギー消費	2	
Ⅳ栄養素の消化・吸収	１栄養素の消化　２栄養素の吸収　３栄養素の体内運搬		
Ⅴ栄養素の体内代謝	１肝臓のはたらき　２血糖　３血漿脂質 ４血漿のアミノ酸・タンパク質　５核酸代謝 ６ポルフィリン代謝　７代謝の調節　８代謝産物の排泄		
Ⅵ栄養ケア・マネジメント	１栄養ケア・マネジメントとは　２栄養スクリーニング ３栄養アセスメント　４栄養ケア計画 ５栄養ケア計画の実施とチェック　６モニタリング　７評価	2	
Ⅶライフステージと栄養	１各ライフステージにおける栄養	4	
Ⅷ臨床栄養	１病院食　２疾患別食事療法の実際　３栄養補給法	4	
Ⅸ健康づくりと食品・食事・食生活	１人間の食事と食文化　２食品と食品群　３各種食品群の分類法　４食生活の変容と栄養の問題点　５生活習慣病の予防 ６食生活の改善による一次予防　７食の安全性と表示	2	

教科書	系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能③　栄養学　医学書院
副読本	糖尿病食事療法のための食品交換表　第７版　日本糖尿病協会・文光堂
評価方法	出席状況、筆記試験、レポート等で総合的に評価する
備考	

科目名	薬理学			担当教員	山下　正義		
開講年次	1年次	授業形態	講義	時間数	30時間	単位	1単位
到達目標	薬物の特徴・作用機序・人体への影響および薬物の管理について学ぶ						

単元名	学習内容	時間	方法
Ⅰ薬理学を学ぶにあたって	1薬理学とはなにか 2薬による病気の治療	2	講義
Ⅱ薬理学の基礎知識	1薬が作用するしくみ　2薬の体内の挙動　3薬物相互作用 4薬効の個人差に影響する因子　5薬と法律	4	
Ⅲ薬理学各論	1抗感染症薬 1）感染症治療に関する基礎事項　2）抗感染症薬各論 3）特殊な感染症の治療薬　4)感染症の治療における問題点	2	
	2抗がん薬 1）がん治療に関する基礎事項　2）抗がん薬各論	2	
	3免疫治療薬 1）免疫系の基礎知識　2）免疫反応のしくみ 3）免疫増強薬・予防接種薬	2	
	4抗アレルギー薬・抗炎症薬 1）抗ヒスタミン薬と抗アレルギー薬　2）炎症と抗炎症薬 3）関節リウマチ治療薬　4）痛風・高尿酸血症治療薬 5）片頭痛治療薬	2	
	5末梢での神経活動に作用する薬物 1）神経系による情報伝達　2）自律神経系作用薬 3）交感神経作用薬　4）副交感神経作用薬 5）筋弛緩薬・局所麻酔薬	2	
	6中枢神経系に作用する薬物 1）中枢神経系のはたらきと薬物　2）全身麻酔薬 3）催眠薬・抗不安薬　4）抗精神病薬	2	
	7心臓・血管系に作用する薬物 1）抗高血圧薬　2）狭心症治療薬　3）心不全治療薬 4）抗不整脈薬　5）利尿薬　6）脂質異常症治療薬 7）血液に作用する薬物	2	
	8呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物 1）呼吸器系に作用する薬物　2）消化器に作用する薬物	2	
	9物質代謝に作用する薬物 1）ホルモンとホルモン拮抗薬　2)治療薬としてのビタミン	2	
	10皮膚科用薬・眼科用薬	2	
	11救急の際に使用される薬物　12漢方薬　13消毒薬	4	
教科書	系統看護学講座　専門基礎分野　疾病のなりたちと回復の促進③　薬理学　医学書院		
副読本			
評価方法	出席状況、筆記試験、レポート等で総合的に評価する		
備考			

科目名	治療論			担当教員	小南　浩・浪尾　敬一・ 山田　史子		
開講年次	1年次	授業形態	講義	時間数	15時間	単位	1単位
到達目標	医療の現場で行われている検査、放射線療法、手術療法の基礎知識について理解する。						

単元名	学習内容	時間	方法
Ⅰ臨床検査 （小南）	1臨床検査とその役割 　1）診療における臨床検査の役割　2）臨床検査の種類 　3）臨床検査の場面と目的　4）臨床検査結果の評価 2臨床検査の流れと看護師の役割 3主な臨床検査 　1）一般検査　2）血液学的検査　3）化学検査 　4）免疫・血清学検査　5）内分泌学的検査 　6）微生物学検査　7）病理検査 　8）生体検査（心電図検査・超音波検査・脳波検査・呼吸機能検査　他）	6	講義
Ⅱ放射線療法 （浪尾）	1放射線医学となりたちと意義 2画像診断における安全性の確保 3検査の実際 　1）X線　2）CT　3）MRI 　4）超音波検査　5）核医学検査　6）IVR・血管造影 4放射線治療 　1）放射線治療総論 5放射線防護 　1）放射線による障害と防護	4	
Ⅲ麻酔法 （山田）	1麻酔とは 2麻酔の種類 3術前・術中・術後管理 4全身麻酔 5局所麻酔	6	
教科書	系統看護学講座　別巻　臨床検査　医学書院 系統看護学講座　別巻　臨床放射線医学　医学書院 系統看護学講座　別巻　臨床外科看護総論　医学書院		
副読本			
評価方法	出席状況、筆記試験、レポート等で総合的に評価する		
備考			

科目名	公衆衛生学Ⅰ			担当教員	秋房　住郎		
開講年次	1年次	授業形態	講義	時間数	15時間	単位	1単位
到達目標	社会集団の健康問題について、人間―環境系からの理解とその疫学的診断に基づく疾病予防の方策の基礎について学ぶ。						

単元名	学習内容	時間	方法
Ⅰ公衆衛生の基礎	1公衆衛生の理念と看護の倫理 1）公衆衛生とは 2）プライマリーヘルスケア 3）情報公開と生命倫理	4	講義
	2健康と環境 1）環境とは 2）生活環境の保全	2	
	3公衆衛生の技術 1）疫学と健康指標 2）新しい健康概念の提案と健康づくりを支援する方法 3）地域コミュニティを対象としたヘルスプロモーション活動 4）健康づくり計画と自薦評価のプロセス	4	
Ⅱ公衆衛生と現在社会	1日本における社会保障制度および医療制度の改革 1）日本の社会保障制度および医療制度をめぐる動向 2）社会保障制度および医療制度の改革	4	
	2グローバル化する世界と公衆衛生 1）公衆衛生とグローバル化 2）国際協力 3）リプロダクティブ・ヘルス/ライツ	2	

教科書	系統看護学講座　専門基礎分野　健康支援と社会保障制度②　公衆衛生　医学書院
副読本	
評価方法	出席状況、筆記試験、レポート等で総合的に評価する
備考	

科目名	公衆衛生学Ⅱ			担当教員	日髙　勝美		
開講年次	2年次	授業形態	講義	時間数	15時間	単位	1単位
到達目標	社会集団の健康ニードに対する社会、医療システムの対応について知るとともに、実際的な公衆衛生活動としての地域保健活動との関連について学ぶ。						

単元名	学習内容	時間	方法
Ⅰ公衆衛生の実践	1 地域保健 1）健康づくりと地域 2）地域保健とは 3）地域保健の展開	4	講義
	2 対象別公衆衛生の実践 1）母子保健 2）成人保健・老人保健 3）精神保健 4）難病保健 5）感染症対策	6	
	3 場面別公衆衛生の実践 1）学校保健 2）産業保健 3）災害保健 4）健康危機管理	6	
教科書	系統看護学講座　専門基礎分野　健康支援と社会保障制度②　公衆衛生　医学書院		
副読本			
評価方法	出席状況、筆記試験、レポート等で総合的に評価する		
備考			

科目名	社会保障制度			担当教員	日髙　勝美		
開講年次	1年次	授業形態	講義	時間数	15時間	単位	1単位
到達目標	社会保障制度の意義と、社会保障制度を規定している関係法規について学ぶ。						

単元名	学習内容	時間	方法
Ⅰ社会保障制度と社会福祉	1社会保障制度 2社会福祉の法制度	2	講義
Ⅱ現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向	1現代社会の変化 　1）人口の変化　2）地域社会の変化 　3）家族・個人の変化　4）経済状況の変化 　5）雇用状況の変化 2社会保障・社会福祉の動向 　1）わが国の社会保障制度の動向　2）保健医療の動向 　3）社会福祉の動向	2	
Ⅲ医療保障	1医療保障制度の沿革 2医療保障制度の構造と体系 3健康保険と国民健康保険 4高齢者医療制度 5保険診療のしくみ 6公費負担医療 7国民医療費	4	
Ⅳ介護保障	1介護保険制度創設の背景と介護保障の歴史 2介護保険制度の概要 3介護保険制度の課題と展望	4	
Ⅴ所得保障	1所得保障制度のしくみ 2年金保険制度 3社会手当 4労働保険制度	2	
Ⅵ公的扶助	1貧困・低所得問題と公的扶助制度 2生活保護制度のしくみ 3低所得層対策 4近年の動向	2	
教科書	系統看護学講座　専門基礎分野　健康支援と社会保障制度③　社会保障・社会福祉　医学書院		
副読本			
評価方法	出席状況、筆記試験、レポート等で総合的に評価する		
備考			

科目名	関係法規			担当教員	日髙　勝美		
開講年次	1年次	授業形態	講義	時間数	15時間	単位	1単位
到達目標	看護職に必要な法令について学ぶ						

単元名	学習内容	時間	方法
Ⅰ法の概念	1法の概念　2法の分類　3衛生法　4厚生行政のしくみ	1	講義
Ⅱ医事法	1看護法 1）保健師助産師看護師法 2）看護師等の人材確保の促進に関する法律 2医師法・医療法 1）医師法　2）歯科医師法　3）医療法 3医療関係資格法	4	
Ⅲ保健衛生法	1共通保健法 2分野別保健法 1）精神保健及び精神障害福祉　2）母子保健法 3）母体保護法　4）学校保健安全法 5）がん対策基本法　等 3感染症に関する法　4食品に関する法	4	
Ⅳ薬務法	1薬事法　2人等の組織を用いた医療関連法 3薬害被害者の救済等　4麻薬・毒物等	2	
Ⅴ環境衛生法	1営業　2環境整備	1	
Ⅵ社会保険法	1費用保障　2年金と手当	1	
Ⅶ福祉法	1共通的福祉 1）社会福祉法　2）生活保護法　3）共通的な各福祉法 2分野別福祉 1）児童分野　2）高齢分野　3）障害分野 4）母子及び寡婦福祉法	1	
Ⅷ労働法と社会基盤整備	1労働法 2社会基盤整備等	1	
Ⅸ環境法	1環境保全の基本法　2公害の防止法 3自然保護法	1	
教科書	系統看護学講座　専門基礎分野　健康支援と社会保障制度④　看護関係法令　医学書院		
副読本			
評価方法	出席状況、筆記試験、レポート等で総合的に評価する		
備考			

科目名	社会福祉			担当教員	大辻　梢		
開講年次	2年次	授業形態	講義	時間数	15時間	単位	1単位
到達目標	わが国の社会福祉制度の変遷・制度と、今日の社会福祉の課題について学ぶ						

単元名	学習内容	時間	方法
			講義
Ⅰ社会福祉の分野とサービス（7章）	1高齢者福祉 1）高齢者の状況　2）高齢者福祉の施策 3）老人保健事業 2障害者福祉 1）障害者の定義と実態　2）障害者福祉の理念 3）障害者福祉制度の変遷　4）障害者福祉の関連施策 5）新たな法体系の整備 3児童家庭福祉 1）児童の特徴　2）児童家庭福祉のしくみ 3）児童福祉法　4）母子保健法　5）少子化対策 6）保育施策　7）児童虐待対策　8）DV対策 9）母子家庭等施策　10）非行児童の福祉	4 4 2	
Ⅱ社会福祉実践と医療・看護（8章）	1社会福祉援助とは 2個別援助技術（ケースワーク） 3集団援助技術 4間接援助技術と関連援助技術 5社会福祉援助の検討課題 6連携の重要性 7社会福祉実践と医療・看護との連携 8連携の場面とその方法	2	
Ⅲ社会福祉の歴史（9章）	1福祉史の枠組み 2福祉史の3段階 3前近代の救済の諸相 4近代の救済の諸相 5現代社会への構造変化と生活支援 6戦後の社会福祉の再生	4	
教科書	系統看護学講座　専門基礎分野　健康支援と社会保障制度③　社会保障・社会福祉　医学書院		
副読本			
評価方法	出席状況、筆記試験、レポート等で総合的に評価する		
備考			

科目名	総合医療論			担当教員	樫本　直樹		
開講年次	2年次	授業形態	講義	時間数	15時間	単位	1単位
到達目標	我が国の医療の歴史と現代医療の諸問題について理解し、医療の中の看護について学ぶ。						

単元名	学習内容	時間	方法
Ⅰ医療と看護の原点	1命について考える　2健康とは　3病の体験 4癒しの行為と癒しの知　5チーム医療とマネジメント	2	講義
Ⅱ医学・医療のあゆみと医療観の変遷	1現代医学の起源　2わが国の医療がたどってきた道 3 20世紀の医療　4医療観のうつりかわり	2	
Ⅲ私たちの生活と健康	1もしも私たちが病気やけがをしたら　2私たちの生活と環境衛生、保健・福祉行政　3少子高齢化社会と世代間のきずな 4障害者のノーマライゼーションと社会的包摂 5心の健康と精神医療	4	
Ⅳ科学技術の進歩と現代医療の最前線	1科学技術の進歩と社会・生活の変化 2現代医学と先端医療技術の最前線	2	
Ⅴ現代医療の新たな課題	1薬の副作用と手術偶発症　2医原病という考え方とケアの実践　3先端医療技術がもたらす倫理上のジレンマ 4生命倫理学と臨床倫理学の展開　5医療不信から「賢い患者」へ　6インフォームドコンセントと医療情報の開示 7医療情報の開示と診療録（カルテ）	2	
Ⅵ医療を見つめ直す新しい視点	1臨床疫学－医療における合理的判断　2患者の安全 3医療の管理と評価　4これからの先端医療開発 5情報化社会と医療	2	
Ⅶ保健・医療・福祉の潮流	1医療変革の波とともに始まった21世紀　2新時代の保健・医療の担い手　3プライマリケアの新たな展開 4医療におけるケアの視点　5保健・医療の国際化 6地域包括医療システムの新しい展開　7保健・医療・福祉システムと地域住民の役割　8地球時代におけるケア	2	

教科書	系統看護学講座　専門基礎分野　健康支援と社会保障制度①　総合医療論　医学書院
副読本	
評価方法	出席状況、筆記試験、レポート等で総合的に評価する
備考	

科目名	基礎看護学概論			担当教員	寺﨑美保子　村山由起子		
開講年次	H31 年度	授業形態	講義	時間数	３０	単位	1
授業の概要	看護全般の概念をとらえ、看護の位置づけと役割・機能とその重要性を学ぶ。看護師としての基本的責任を果たすため、看護師の在り方に対する倫理を学ぶ。						
到達目標	①　看護の本質を知り、身体的、精神的、社会的側面から人間の健康状態を理解する。 ②　職業としての看護を理解し、安全性、倫理観をもって質の高い看護サービスができる態度を学ぶ。 ③　看護の提供はあらゆる場所で提供されることを学ぶ。						

回	授業内容	授業方法	自己学修課題（予習・復習）	取組時間	担当者
1	Ⅰ看護の本質（１．看護の定義、２．看護の歴史）	講義	復習	1	村山
2	Ⅰ看護に本質（３．看護理論について）	講義	復習	1	村山
3	Ⅱ看護の役割と機能（１．看護ケア、２．看護の役割・機能の拡大）	講義	復習	1	村山
4	Ⅲ看護の継続性と情報共有（１．入院における継続性	講義	復習	1	村山
5	Ⅲ看護の継続性と情報共有（２．多職種チームとのかかわり　３．在宅療養との連携と関わり）	講義	復習	1	村山
6	Ⅳ看護における倫理（１．現代社会と倫理２．医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理）	講義	復習	1	村山
7	Ⅴ看護における倫理（３．医療専門職の倫理規定　４．看護実践における倫理問題への取り組み）	講義	復習	1	村山
8	人間の「こころ」と「からだ」	講義	復習	1	寺﨑
9	人間のこころとからだ・体にかかるストレスの影響	講義	復習	1	寺﨑
10	生涯発達しつづける存在としての人間・人間の暮らしの理解	講義	復習	1	寺﨑
	国民の健康･健康の全体像	講義	復習	1	寺﨑

	・ライフサイクルと健康・生活 現在の日本人の健康と生活を考える	講義	復習	1	寺﨑
13	看護の提供者・職業としての看護・・資格と養成にかかわる制度・看護職者の就業	講義	復習	1	寺﨑
14	看護の提供のしくみ・サービスとしての看護・提供の場・経済・人員配置・評価	講義	復習	Ⅰ	寺﨑
15	国際化と看護・災害時における看護	講義	復習	1	寺﨑

教科書	系統看護学講座　専門Ⅰ　看護学概論　基礎看護学①医学書院
参考書・参考文献	看護覚書、看護の基本となるもの
成績評価の方法	出席状況、筆記試験、レポートなどで総合評価する
学習へのアドバイス	看護とは何か、看護師とはどのような職業か、また、人を看護するにあたって基本となる姿勢・考え方などしっかり学んでほしい。

科目名	共通基本技術Ⅰ			担当教員	小野　香　・　杉山		
開講年次	1年次	授業形態	講義･演習	時間数	30 時間	単位	1 単位
授業の概要	看護技術とは科学的知識に裏づけられた看護技術を援助技術として実践することであり、看護技術の良否が看護の質を決定する。また、看護を始めるにあたってどんな看護場面においても、まずは対象を理解することから始まり、それにはコミュニケーションが必要不可欠である。そのためここでは、看護技術の習得の必要性を理解し、援助経過における人間関係形成に必要な知識・コミュニケーション技術や自己・他者理解を深めるための技法、生命徴候を観察する基本的援助技術を習得する。（看護技術の概念、コミュニケーション技術、バイタルサイン）						
到達目標	1. 看護技術の基本原則が理解できる。 2. 技術を適切に実践するための要素を理解できる。 3. コニュニケーションの基本的構成要素が理解できる。 4. コミュニケーションに必要な能力（聴く・話す・理解する・感性を磨く）を学ぶ。 5. バイタルサインの正確な測定方法を習得する。 6. 全身状態を系統的に把握するためのフィジカルアセスメントの基本的知識を習得する。						

回	授業内容	授業方法	自己学修課題（予習･復習）	取組時間	担当者
1	Ⅰ看護技術を学ぶにあたって Ⅱ看護技術の根底をなすもの～適切な技術習得のために～	講義	・テキストを読み講義に臨む ・課題学習	30 分 30 分	小野
2	Ⅲコミュニケーション A コミュニケーションの意義と目的	講義	・テキストを読み講義に臨む ・講義の復習	30 分 30 分	杉山
3	Ⅲコミュニケーション B コミュニケーションの構成要素と成立過程 C 関係構築のためのコミュニケーションの基本	講義	学習内容は講義時に指示する		杉山
4	Ⅲコミュニケーション D 効果的なコミュニケーションの実際	演習			杉山
5	Ⅲコミュニケーション E プロセスレコードの書き方	講義			杉山
6	Ⅲコミュニケーション コミュニケーション障害への対応	演習			杉山
7	Ⅳヘルスアセスメント 1.ヘルスアセスメントとは	講義			小野
8	Ⅳヘルスアセスメント 2.健康歴とセルフケア能力のアセスメント	講義			小野
9	Ⅳヘルスアセスメント 3.アセスメントに必要な技術	講義			小野
10	Ⅳヘルスアセスメント 4.バイタルサインの観察とアセスメント	講義			小野
11	Ⅳヘルスアセスメント 4.バイタルサインの観察とアセスメント（演習）	演習			小野

12	Ⅳヘルスアセスメント 6.計測	講義	学習内容は講義時に指示する		小野
13	Ⅳヘルスアセスメント 総合演習	演習	↓		小野
14	Ⅳヘルスアセスメント 実技チェック	演習	↓		小野
15	Ⅳヘルスアセスメント 実技チェック	演習	↓		小野

教科書	系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅰ　基礎看護学②　医学書院 系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅱ　基礎看護学③　医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術　医学書院
参考書・参考文献	長谷川雅美編集：自己理解　対象理解を深めるプロセスレコード　日総研
成績評価の方法	出席状況、筆記試験、レポート等で総合的に評価する
学習へのアドバイス	演習時は白衣着用 技術の習得のためには、時間外に自己練習を行う必要があります

科目名	共通基本技術Ⅱ			担当教員	赤毛　智美・小山　京子		
開講年次	1年次	授業形態	講義・演習	時間数	30時間	単位	1単位
授業の概要	看護実践の原則である安全や安楽について思考し、感染予防の基礎的知識・技術を理解する。また看護における学習支援の基本技術、情報共有するために必要な記録・報告について理解し、基本的援助技術を学習していく。						
到達目標	1．安楽を阻害する要因を知り、安楽を提供する援助について理解する。 2．感染に関する知識を知り、感染防止の基礎的技術を理解する。 3．安全を阻害する要因を知り、安全確保の技術について理解する。 4．看護における学習支援の目的を理解し、効果的なアプローチ方法について理解する。 5．記録・報告の重要性を学び、効果的な記録・報告の方法について理解する。						

回	授業内容	授業方法	自己学修課題（予習・復習）	取組時間	担当者
1	感染防止の基礎知識 標準予防策（スタンダードプリコーション） 感染性廃棄物の取り扱い	講義	授業内容の復習及び次回の予習	1	小山
2	標準予防策（スタンダードプリコーション）	演習	授業内容の復習及び次回の予習	1	小山
3	体位保持（ポジショニング）	講義	授業内容の復習及び次回の予習	1	赤毛
4	体位保持（ポジショニング）	演習	授業内容の復習及び次回の予習	1	赤毛
5	罨法 身体ケアを通じてもたらされる安楽	講義	授業内容の復習及び次回の予習	1	赤毛
6	罨法 身体ケアを通じてもたらされる安楽	演習	授業内容の復習及び次回の予習	1	赤毛
7	感染経路別予防策 洗浄・消毒・滅菌、無菌操作	講義	授業内容の復習及び演習の課題学習	1	小山

8	無菌操作 感染性廃棄物の取り扱い、カテーテル関連血流感染対策、針刺し防止策	講義	授業内容の復習及び演習の課題学習	1	小山
9	無菌操作	演習	授業内容の復習及び演習の課題学習	1	小山
10	無菌操作	演習	授業内容の復習及び次回の予習	1	小山
11	安全確保の基礎知識、誤薬防止、チューブ類の予定外抜去防止	講義	授業内容の復習及び次回の予習	1	赤毛
12	患者誤認防止、転倒・転落防止、薬剤・放射線曝露の防止	講義	授業内容の復習及び次回の予習	1	赤毛
13	看護における学習支援とは 健康に生きることを支える学習支援	講義	授業内容の復習及び次回の予習	1	小山
14	健康状態の変化に伴う学習支援 看護のなかに含まれる学習支援	講義	授業内容の復習及び次回の予習	1	小山
15	看護記録	講義	授業内容の復習及び次回の予習	1	小山

教科書	系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅰ　基礎看護学②　医学書院 系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅱ　基礎看護学③　医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術　医学書院
参考書・参考文献	看護学生スタートアップトレーニング
成績評価の方法	出席状況・演習時の態度・レポート・筆記試験で総合的に判断する
学習へのアドバイス	演習時は白衣着用

科目名	日常生活援助技術Ⅰ			担当教員	原田 奈津子・西村　直子・赤毛　智美		
開講年次	1年次	授業形態	講義　演習	時間数	45時間	単位	1単位
授業の概要	看護技術とは何か、対象に看護技術を用いる意味を考える。その上で対象のニーズについて理解を深め、安全で安楽に日常生活を送るための安楽確保の技術について学ぶ。そして技術の科学的根拠と正確な方法を理解して実施できる能力を身につける。						
到達目標	1．人間にとっての環境の意味を理解し、生活環境・病床環境を整えるための知識と援助方法を習得する。 2．食の意義やメカニズムを理解し、栄養状態や健康のレベル・食事行動の自立度に応じた効果的な援助方法を習得する。 3．排泄の意義やメカニズムを理解し、健康のレベル・排泄行動の自立度に応じた効果的な援助方法を習得する。						

回	授業内容	授業方法	自己学修課題（予習・復習）	取組時間	担当者
1	Ⅰ．環境調整技術 ①援助の基礎知識	講義	授業内容の予習･復習		原田
2	Ⅰ．環境調整技術 ②演習（環境測定）	講義 演習	授業内容の予習･復習 演習レポート		原田
3	Ⅰ．環境調整技術 ③援助の実際（環境整備・ベッドメーキング）	講義	授業内容の予習･復習		原田
4	Ⅰ．環境調整技術 ④演習（ベッドメーキング）	演習	授業内容の予習･復習 演習レポート		原田
5	Ⅰ．環境調整技術 ⑤演習（ベッドメーキング）	演習	授業内容の予習･復習 演習レポート		原田
6	Ⅰ．環境調整技術 ⑥演習（臥床患者のシーツ交換）	演習	授業内容の予習･復習 演習レポート		原田
7	Ⅰ．環境調整技術 ⑦演習（臥床患者のシーツ交換）	演習	授業内容の予習･復習 演習レポート		原田

8	Ⅰ．環境調整技術 ⑧まとめ	講義 演習	授業内容の予習･復習		原田
9	Ⅱ．食事援助技術 食事援助の基礎知識	講義	教科書の予習と授業内容の復習		西村
１０	Ⅱ．食事援助技術 食事の介助、基礎知識	講義 DVD	教科書の予習と授業内容の復習		西村
１１	Ⅱ．食事援助技術 食事援助の実際	講義 演習	教科書の予習と授業内容の復習		西村
１２	Ⅱ．食事援助技術 摂食・嚥下訓練の基礎知識と実際	講義 DVD	教科書の予習と授業内容の復習		西村
１３	Ⅱ．食事援助技術 経腸栄養法の基礎知識	講義 DVD	教科書の予習と授業内容の復習		西村
１４	Ⅱ．食事援助技術 経腸栄養法の実際	講義 DVD	教科書の予習と授業内容の復習		西村
１５	Ⅱ．食事援助技術 中心静脈栄養法	講義 DVD	教科書の予習と授業内容の復習		西村
１６	Ⅲ．排泄援助技術 ①援助の基礎知識	講義	自己学修課題 復習		赤毛
１７	Ⅲ．排泄援助技術 ②自然排尿および自然排便の介助	講義	自己学修課題 復習		赤毛
１８	Ⅲ．排泄援助技術 ③床上排泄援助（尿器、便器）	演習	自己学修課題 予習		赤毛
１９	Ⅲ．排泄援助技術 ④排便を促す援助	講義	自己学修課題 復習		赤毛
２０	Ⅲ．排泄援助技術 ⑤導尿	演示	自己学修課題 予習		赤毛

２１	Ⅲ．排泄援助技術 ⑥ストーマケア	講義	自己学修課題 復習		赤毛
２２	Ⅲ．排泄援助技術 ⑦床上排泄援助（オムツ交換、陰部洗浄）	演習	自己学修課題 予習		赤毛
２３	Ⅲ．排泄援助技術 ⑧床上排泄援助（オムツ交換、陰部洗浄、便器、 ストマ、ポータブルトイレ）	演習	自己学修課題 予習、復習		赤毛

教科書	系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅱ　基礎看護学③　医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術　医学書院
参考書・参考文献	看護学生スタートアップトレーニング
成績評価の方法	出席状況、レポート提出状況、筆記試験等で総合的に評価する
学習へのアドバイス	講義・演習の前に、次回授業内容の予習・復習を必ず行うこと 演習時は白衣を着用すること

科目名	日常生活援助技術Ⅱ			担当教員	小野　香　・　武森　勢津子		
開講年次	1年次	授業形態	講義・演習	時間数	46時間	単位	1単位
授業の概要	健康障害により日常生活が自立して行えなくなった患者にとって、看護師が提供する日常生活の援助は人間らしい生を支える技術であり、看護の本領といえる。また、人が健康な生活を維持していくためには、活動と休息のバランスがとれていることが重要な要素であり、清潔行動は豊かな社会生活を営むためにだれもが日常的に行い習慣化しているものである。ここでは、活動と休息の意義や援助方法、清潔の意義と清潔援助の目的、基礎的援助技術を習得する。 (活動・休息・清潔)						
到達目標	1. 活動と休息の意義やメカニズムを理解し、健康のレベルや活動・休息に関する自立度に応じた効果的な援助方法を習得する。 2. 皮膚と粘膜の保護および清潔保持に関するメカニズムを理解し、効果的・効率的な援助の方法を習得する。						

回	授業内容	授業方法	自己学修課題（予習・復習）	取組時間	担当者
1	第4章活動・休息援助技術 A 基本的活動の援助 1)基本的活動の基礎知識	講義	・テキストを読み講義に臨む(毎回) ・学習内容はその日に振り返りを行う	30分 30分	小野
2	第4章活動・休息援助技術 A 基本的活動の援助 2)体位 3)体位変換	講義	学習内容は講義時に指示する	1時間	小野
3	第4章活動・休息援助技術 A 基本的活動の援助 ボデイメカニクス体位変換演示十演習	演習			小野
4	第4章活動、休息援助技術 A^基本的活動の援助 4)移動 5)移乗・移送	講義			小野
5	第4章活動・休息援助技術 A 基本的活動の援助 車椅子の移動、移乗・移送演示十演習	演習			小野
6	第4章活動・休息援助技術 A 基本的活動の援助 移動、移乗・移送演示十演習	演習			小野
7	第6章　清潔・衣生活援助技術 A　清潔の優助 1)清潔援助の基礎知識	講義			小野
8	第6章　清潔・衣生活援助技術 A　清潔の援助 2)清潔援助の実際 ①入浴②清拭⑦整容	講義			小野
9	第6章　清潔・衣生活援助技術 A　清潔の援助 2)清潔援助の実際 全身済拭　演示+演習	講義			小野
10	第6章　清潔・衣生活援助技術 A　清潔の援助 全身清拭演習	演習			小野
11	第6章　清潔・衣生活援助技術 A　清潔の援助 全身清拭演習	演習			小野

12	第6章　清潔・衣生活援助技術 A　清潔の援助 全身清拭演習	演習	学習内容は講義時に指示する	1時間	小野
13	第6章　清潔・衣生活援助技術 A　清潔の援助 2)清潔援助の実際 ③洗髪④手浴⑤足浴⑥陰部洗浄	講義			小野
14	第6章　清潔・衣生活援助技術 A　清潔の援助 2)清潔援助の実際 手浴・足浴　演示+演習	演習			小野
15	第6章　清潔・衣生活援助技術 A　清潔の援助 2)清潔援助の実際 足浴・足浴　　演示+演習	演習			小野
16	第6章　清潔・衣生活援助技術 A　清潔の援助 2)清潔援助の実際 口腔ケア　演示+演習	演習			小野
17	第6章　清潔・衣生活援助技術 A　清潔の援助 2)清潔援助の実際 陰部洗浄　演示+演習	演習			小野
18	第6章　清潔・衣生活援助技術 A　清潔の援助 2)清潔援助の実際 洗髪　　演示+演習	演習			武森
19	第6章　清潔・衣生活援助技術 A　清潔の援助 洗髪　　演習	講義			武森
20	第6章　清潔・衣生活援助技術 技術チェック	演習			武森
21	第6章　清潔・衣生活援助技術 技術チェック	演習			武森
22	第6章　清潔・衣生活援助技術 技術チェック	演習			武森
23	第6章　清潔・衣生活援助技術 まとめ	講義			小野

教科書	系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅱ　基礎看護学③　医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術　医学書院
参考書・参考文献	講義時に提示する
成績評価の方法	出席状況、筆記試験、レポート等で総合的に評価する
学習へのアドバイス	演習時は白衣着用 実技の習得には、時間外に自己で練習をする必要があります。

科目名	フィジカルアセスメント			担当教員	丸茂　ひろみ		
開講年次	2年次	授業形態	講義	時間数	30時間	単位	1単位
到達目標	1．フィジカルアセスメント技術とそれによって得られる客観的データについて理解する。 2．呼吸・循環の状態を判断する基礎知識と、それを整えるための効果的な援助方法を理解する。						

単元名	学習内容	時間	方法
Ⅰヘルスアセスメント	1ヘルスアセスメントとは 2ヘルスアセスメントの実際 ・全体を概観する ・フィジカルアセスメント 3心理・社会状態のアセスメント ・心理的側面のアセスメント ・社会的側面のアセスメント	16	講義 演習
Ⅱ呼吸・循環を整える技術	1酸素吸入療法 2吸引 3排痰ケア 4吸入 5人工呼吸療法 6体温管理の技術 7末梢循環促進ケア 演習：問診　視診　触診　打診　聴診	14	
教科書	系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅰ　基礎看護学②　医学書院 系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅱ　基礎看護学③　医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術　医学書院		
副読本	看護学生スタートアップトレーニング 山内豊明著：フィジカルアセスメントガイドブック　第2版　医学書院		
評価方法	出席状況・演習・レポート30%、筆記試験70%		
備考	演習時は白衣着用		

科目名	診療に伴う援助技術			担当教員	原田　奈津子・小山　京子		
開講年次	2年次	授業形態	講義・演習	時間数	45時間	単位	1単位
授業の概要	看護の対象がより安全で安楽な療養生活のもとに回復過程を促進出来るように、診療の補助業務の視点から、診療を受ける対象への看護援助の基本となる知識・援助方法を学習していく。						
到達目標	1．診察・検査における看護師の役割を理解し、診察・検査の介助などの基礎的技術を習得する。 2．薬物療法に伴う援助について理解し、安全に与薬を行う基礎的技術を習得する。 3．皮膚・創傷を管理するための知識と基礎的技術を習得する。 4．医療用機器の原理と実際を理解する。						

回	授業内容	授業方法	自己学修課題（予習・復習）	取組時間	担当者
1	創傷管理技術 ①創傷管理の基礎知識　②創傷処置	講義	授業内容の予習･復習		原田
2	創傷管理技術 ③褥瘡予防	講義	授業内容の予習･復習		原田
3	創傷管理技術 ④包帯法	講義 演習	授業内容の予習･復習、演習レポート		原田
4	与薬の技術 ①与薬の基礎知識(1)	講義	授業内容の予習･復習		原田
5	与薬の技術 ①与薬の基礎知識(2)	講義	授業内容の予習･復習		原田
6	与薬の技術 ②経口与薬・口腔内与薬　③吸入　④点眼 ⑤点鼻　⑥経皮的与薬　⑦直腸内与薬	講義	授業内容の予習･復習		原田
7	与薬の技術 ⑧注射	講義	授業内容の予習･復習		原田
8	与薬の技術 ⑨点滴静脈内注射　⑩輸血管理	講義	授業内容の予習･復習		原田

9	与薬の技術 ⑪演習（注射準備）	講義 演習	授業内容の予習･復習、演習レポート		原田
10	与薬の技術 ⑫演習（静脈血採血）	演習	授業内容の予習･復習、演習レポート		原田
11	与薬の技術 ⑬演習（ホルダー使用静脈血採血）	演習	授業内容の予習･復習、演習レポート		原田
12	与薬の技術 ⑭演習（筋肉内注射）	演習	授業内容の予習･復習、演習レポート		原田
13	症状・生体機能管理技術の基礎知識 検体検査	講義	授業内容の復習及び次回の予習		小山
14	検体検査 生体情報のモニタリング	講義	授業内容の復習及び次回の予習		小山
15	生体情報のモニタリング	講義	授業内容の復習及び次回の予習		小山
16	診察の介助 検査・処置の介助 ①Ｘ線撮影　②コンピュータ断層撮影（ＣＴ） ③磁気共鳴画像（ＭＲＩ）	講義	授業内容の復習及び次回の予習		小山
17	検査・処置の介助 ④内視鏡検査　⑤超音波検査　⑥肺機能検査 ⑦核医学検査	講義	授業内容の復習及び次回の予習		小山
18	検査・処置の介助 ⑧穿刺	講義	授業内容の復習及び次回の予習		小山
19	検査・処置の介助 胃洗浄　※気管支洗浄、膀胱洗浄	講義	授業内容の復習及び次回の予習		小山

20	輸液療法・科学療法・放射線療法を受ける対象への看護	講義	授業内容の復習及び次回の予習		小山
21	手術療法・集中治療・創傷処置/創傷ケア・身体侵襲を伴う検査・治療を受ける対象への看護	講義	授業内容の復習及び次回の予習		小山
22	医療機器の原理と実際 ① 医療機器を安全に使うために ② 測定用医療機器の原理と実際 ③ 治療用医療機器の原理と実際 ④ 医療機器使用時の看護	講義	授業内容の予習・復習		原田
23	医療機器の原理と実際 ⑤ 演習	演習	授業内容の予習・復習、演習レポート		原田

教科書	系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅱ　基礎看護学③　医学書院 系統看護学講座　専門分野Ⅰ　臨床看護総論　基礎看護学④　医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術　医学書院
参考書・参考文献	看護学生スタートアップトレーニング
成績評価の方法	出席状況、筆記試験、レポート等で総合的に評価する
学習へのアドバイス	演習時は白衣着用

科目名	臨床看護総論			担当教員	寺﨑美保子　赤毛智美		
開講年次	１年次	授業形態	講義	時間数	３０	単位	１単位
授業の概要	ライフサイクルから対象をとらえ、経過に応じた症状における看護を理解する。						
到達目標	健康障害を持つ対象を理解し、状態に応じた看護を理解する						

回	授業内容	授業方法	自己学修課題（予習・復習）	取組時間	担当者
1	Ⅰライフサイクル、家族の機能、生活と療養上の場からとらえた対象と家族の健康上のニーズを理解する	講義	授業内容の復習及び次回予習	1	寺﨑
2	Ⅱ急性期、慢性期における看護を理解する	講義	授業内容の復習及び次回予習	1	寺﨑
3	Ⅱリハビリテーション期、終末期における看護を理解する	講義	授業内容の復習及び次回予習	1	寺﨑
4	Ⅲ呼吸に関連する症状における看護を理解する	講義	授業内容の復習及び次回予習	1	寺﨑
5	Ⅲ循環に関連する症状における看護を理解する	講義	授業内容の復習及び次回予習	1	寺﨑
6	Ⅲ栄養、代謝、排泄に関連する症状における看護を理解する	講義	授業内容の復習及び次回予習	1	寺﨑
7	Ⅲ栄養、代謝、排泄に関連する症状における看護を理解する	講義	授業内容の復習及び次回予習	1	寺﨑
8	Ⅲ活動や休息、認知や知覚に関連する症状における看護を理解する	講義	授業内容の復習及び次回予習	1	寺﨑
9	Ⅲコーピング、安全や生体防御機能に関連する症状における看護を理解する	講義	授業内容の復習及び次回予習	1	寺﨑
１０	Ⅲ安楽に関連する症状における看護を理解する	講義	授業内容の復習及	1	寺﨑

			び次回予習		
11	Ⅳ救命救急処置の基礎知識	講義	授業内容の復習	1	赤毛
12	Ⅳ心肺蘇生法、止血法、院内急変時時の対応	講義	授業内容の復習及び次回予習	1	赤毛
13	Ⅳ　一次救命処置	演習	授業内容の復習及び次回予習	1	赤毛
14	Ⅳ　二次救命処置	演習	授業内容の復習及び次回予習	1	赤毛
15	Ⅴ　死の看取りの援助	講義	授業内容の復習及び次回予習	1	赤毛

教科書	系統看護学講座　専門分野Ⅰ　臨床看護学総論　基礎看護学④　医学書院 系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅱ　基礎看護学③　医学書院 系統看護学講座　専門基礎　病態生理学　疾病の成り立ちと回復の促進②　医学書院
参考書・参考文献	
成績評価の方法	出席状況・レポート３０％　筆記試験７０％
学習へのアドバイス	

教科書	系統看護学講座　専門分野Ⅰ　臨床看護学総論　基礎看護学④　医学書院 系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅱ　基礎看護学③　医学書院 系統看護学講座　専門基礎　病態生理学　疾病の成り立ちと回復の促進②　医学書院
参考書・参考文献	
成績評価の方法	出席状況・レポート３０％　筆記試験７０％
学習へのアドバイス	

科目名	看護過程			担当教員	小野香 ・ 鈴木幸恵 ・ 赤毛智美 丸茂ひろみ ・ 杉山恵子 ・		
開講年次	1年次	授業形態	講義・演習	時間数	30時間	単位	1単位
授業の概要	看護活動は、あらゆる健康状態の人々を対象に、一人ひとりの健康に対する考え方を尊重し、いかに自立して健康に暮らせるかという生活の質をも含めた継続的な活動である。看護活動には、看護過程の概念が用いられ、これは順序性を伴う思考・判断過程でもあり、この過程には多くの科学的な根拠や知識が必要とされる。ここでは、科学的に問題解決を行うため、看護過程の基礎を理解したうえで、事例をもとに看護過程の展開方法を習得する。						
到達目標	目標：対象の健康上の課題を解決するための看護過程の展開方法を学ぶ。						

回	授業内容	授業方法	自己学修課題（予習・復習）	取組時間	担当者
1	Ⅰ 看護過程とは 1)看護過程の定義と看護過程各段階と相互関係 2)看護過程を展開する際に基盤となる考え方	講義	講義前後に 配布資料を読む	1時間	小野
2	Ⅱ 看護過程の各段階 1 アセスメント 1) 情報の種類と情報収集の方法 2)ゴードンの機能的健康パターンによる情報収集と分類・整理	講義	講義前後に 配布資料を読む	1時間	小野
3	2) 問題解決過程の考え方による分析・解釈 ・分析・解釈 ・仮診断	講義	講義前後に 配布資料を読む	1時間	小野
4	3) 関連図による統合 ・関連図作成 ※関連図の位置づけ ・統合	講義	講義前後に 配布資料を読む	1時間	小野
5	2 診断 1) 看護診断と共同問題（二重焦点臨床実践モデル） 2) 看護診断とPES方式による表記 3) 共同問題の表記 4) 優先順位の設定と問題リスト作成	講義	講義前後に 配布資料を読む	1時間	小野
6	3 計画 1) 目標の明確化と表記方法 2) 目標の明確化と表記方法 3)看護診断と共同問題の看護計画の相違点	講義	講義前後に 配布資料を読む	1時間	小野
7	4 実施 1) 実施の流れと実施後評価 2) 2)実施の記録の方法（SOAP形式による記録） 5 評価 1)評価を行う時期と評価の進め方 2)評価の記録	講義	講義前後に 配布資料を読む	1時間	小野
8	看護過程・事例展開 1)グループ分け（指定グループ）・担当教員紹介 ・リーダー・サブリーダー および司会・書記の順番確認 2)演習事例配布と演習展開の説明 3)演習事例の読み込み・データベースシート検討	演習 GW	個人ワーク GW （講義時間外）	1時間 2時間 程度	小野 鈴木 赤毛 丸茂 杉山 …
9	看護過程・事例展開 ※演習の計画については、講義時に別途計画表を配布	演習 GW	個人ワーク GW （講義時間外）	1時間 2時間 程度	↓

10	看護過程・事例展開	演習 GW	個人ワーク GW （講義時間外）	1時間 2時間 程度	小野 鈴木 赤毛 丸茂 杉山 …
11	看護過程・事例展開	演習 GW	個人ワーク GW （講義時間外）	1時間 2時間 程度	↓
12	看護過程・事例展開	演習 GW	個人ワーク GW （講義時間外）	1時間 2時間 程度	↓
13	看護過程・事例展開	演習 GW	個人ワーク GW （講義時間外）	1時間 2時間 程度	↓
14	看護過程・事例展開	演習 GW	個人ワーク GW （講義時間外）	1時間 2時間 程度	↓
15	看護過程　発表会 まとめ	演習 講義			小野

教科書	系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅰ　基礎看護学②　医学書院 看護診断ハンドブック　著リンダJ.カルペニート　医学書院 ※その他必要時　指示あり 必要時資料配布
副読本	看護診断のためのよくわかる中範囲理論　学研
評価方法	出席状況、筆記試験、レポート等で総合的に評価する
備考	演習時は、個人ワークを行ったうえで毎週講義時間外のGWが必要です。

科目名	看護研究			担当教員	石井　知亜子・西村　直子		
開講年次	2年次	授業形態	講義	時間数	30時間	単位	1単位
到達目標	看護研究の意義と方法を理解し、専門職業人としての看護師に必要な研究態度を養う						

単元名	学習内容	時間	方法
Ⅰ研究と実践活動 （　石井　）	1事例研究とは　2体験的症例集積研究 3実践の中から発見する研究課題 4個の考え方　5ＥＢＮ：根拠に基づく看護	2	講義 演習
Ⅱ研究の種類と特徴 （　石井　）	1研究のデザインはなぜ必要か 2研究の問いの種類と研究デザインとの関係 3研究デザインの種類　4質的研究と量的研究 5実験研究と準実験研究　6調査方法の種類	2	
Ⅲ事例研究の重要性 （　石井　）	1看護実践と研究 2事例研究の面白さと留意点	4	
Ⅳ事例研究の進め方 （　石井　）	1課題を見つけ研究テーマをしぼり込む 2資料を収集する 3集めた資料をどう扱うか 4研究成果の発表	4	
Ⅴ看護研究の実際 （　西村　）	1事例研究 ①研究テーマの決定　②研究計画書作成 ③先行研究（文献検索）④レポート作成 2ディスカッション	１４	
Ⅵ看護研究のクリティーク （　石井　）	1クリティークとは何か 2クリティークするために必要な能力 3研究論文をクリティークするときの基準 4看護の研究論文をクリティークする際の留意点	2	
Ⅶ研究における倫理 （　石井　）	1倫理とは何か 2看護研究における倫理 3研究において擁護されるべき権利	2	

教科書	ナーシンググラフィカ　基礎看護学④　看護研究　メディカ出版
副読本	看護学生のためのレポートの書き方教室　照林社
参考図書	看護における研究　日本看護協会出版会
評価方法	出席状況・演習・レポート30%、筆記試験70%
備考	

科目名	基礎看護学実習Ⅰ			担当教員	小野　香		
開講年次	1年次	授業形態	臨地実習	時間数	45時間	単位	1単位

実習目的	【基礎看護学実習Ⅰ－1】 病院の機能を知り、対象の療養生活の実際を理解する。 【基礎看護学実習Ⅰ－2】 対象の療養生活を理解し、対象の状態を考えた日常生活の援助技術を学ぶ。
実習目標	【基礎看護学実習Ⅰ－1】 1．病院の構造や機能を知る。 2．対象の療養生活を知る。 3．看護の実際を知る。 4．看護学生としての行動がとれる。 【基礎看護学実習Ⅰ－2】 1．対象の現在の状態が分かる。 2．対象の状態に応じた必要な援助を考え、安全・安楽に留意して日常生活の援助ができる。 3．看護学生として倫理に基づいた行動ができる。
実習方法	1．実習方法 臨地実習と学内実習と合わせて下記時間の実習を行う 基礎看護学実習Ⅰ－1（15時間） 病院・病棟のオリエンテーションを受ける 看護師とともに行動し（シャドウイング）、看護活動の実際を見学する 基礎看護学実習Ⅰ－2（30時間） 対象の情報収集・分析解釈を行う 対象の状態に応じた援助を行う 個々の学生の体験を、カンファレンスなどを通してグループメンバーで共有する リフレクションを通して看護場面・看護実践を振り返り、看護の意味や価値を考え、課題を見出す 2．実習内容 具体的な実習内容、方法は実習要項参照
評価方法	出席状況・実習態度・実習記録など実習評価項目に沿って総合的に評価

科目名	基礎看護学実習Ⅱ			担当教員	小野　香		
開講年次	2年次	授業形態	臨地実習	時間数	90時間	単位	2単位

実習目的	看護の対象に関心を寄せ、対象を身体的・精神的・社会的側面から理解し、科学的根拠に基づいた看護を展開する基礎的能力を養う。
実習目標	1．対象を身体的・精神的・社会的側面から理解できる。 2．対象の状態に応じた看護過程の展開方法を理解する。 3．対象の状態に応じた援助技術ができる。 4．行った看護を評価・考察できる。 5．対象と良好な人間関係を築くことができる。 6．保健・医療・福祉の連携について知ることができる。 7．看護学生として倫理に基づいた行動ができる。
実習方法	1．実習方法 臨地実習と学内実習と合わせて上記時間の実習を行う 受け持ち患者の看護過程の展開を通して、対象に必要な看護を導き出す 自己の看護計画に基づいた看護を実践する 行った看護内容を評価・考察し、看護計画の修正を行う 個々の学生の体験を、カンファレンスなどを通してグループメンバーで共有し、メンバーの体験を追体験する 2．実習内容 具体的な実習内容、方法は実習要項参照
評価方法	出席状況・実習態度・実習記録など実習評価項目に沿って総合的に評価

授業科目	成人看護学概論			担当教員	村山　由起子		
開講年次	2年	授業形態	講義	時間数	30	単位	1
授業概要	ライフサイクルにおいて成人期にある人々を全人的に理解するために成人の身体的・心理的・社会的な特徴について学解説する。また成人の健康問題について多様な要因と発生する諸問題について、生活環境・生活習慣等と関連づけて理解できるように解説する。						
到達目標	1．成人期にある人の身体的心理的・社会的特徴を踏まえ、生活と健康問題について説明できる。 2．成人保健動の動向を踏まえて、成人期にある人々の健康障害の特徴とその要因について説明できる。 3．成人看護学に必要な基本的概念と理論について説明できる。						

回	授業内容	授業方法	自己学修課題（予習・復習）	取組時間	担当者
1	Ⅰ成人期にある人の理解 1．成人とは 2．成人であることの自覚 3．成人の特徴の概要	講義	復習	1	村山
2	4．仕事からみた成人期の特徴 5．地域からみた成人期の特徴 6．成人と死 7．ライフサイクルと発達課題	講義	復習	1	村山
3	8．成長発達のアセスメントポイント 9．成人の区分 10．発達課題の対比	講義	復習	1	村山
4	Ⅱ身体機能の特徴 1．青年期の特徴 2．壮年期の特徴 3．向老期の特徴 4．国試に向けての小問題	講義	復習	1	村山
5	Ⅲ健康生活を育む看護 1．ヘルスプロモーション 2．疾病の予防の種類	講義	復習	1	村山
6	3．健康日本21 4．健康増進法について 5．保健行動と病気行動	講義	復習	1	村山
7	Ⅳ成人期にある人の学習の特徴 1．学習過程に影響を及ぼす要因 2．成人教育学について 3．成人の学習に対する指導上の留意点	講義	復習	1	村山
8	4．成人学習者の特徴 5．自己効力について 6．生活ストレスに関連する健康問題	講義	復習	1	村山
9	6．健康ストレスに関連する健康問題	講義	復習	1	村山
10	Ⅴ適応を促す 1．危機的状況からの回復を支える 2．適応すること	講義	復習	1	村山
11	3．セクシュアリティに関連する健康障害	講義	復習	1	村山

12	Ⅵ職業に関連する健康障害 １．労働衛生管理の基本 ２．労働衛生の３管理と看護職の支援内容	講義	復習	1	村山
13	３．労働者の健康障害 ４．職業性疾病の予防と対応 ５．国試に向けての小問題	講義	復習	1	村山
14	Ⅶ余暇活動に伴う健康障害 １．余暇とは何か ２．余暇活動の意義 ３．成人期の余暇活動の特徴 ４．成人期における余暇活動と健康障害 ５．余暇活動の伴う健康障害の予防と対策 ６．障害のある人の余暇活動	講義	復習	1	村山
15	Ⅷ HIV・エイズ １．エイズ対策の歩み ２．感染の統計及び推移 ３．対策と世界の動向	講義	復習	1	村山

教科書	ナーシンググラフィカ　成人看護学①成人看護学概論　　メディカ出版 国民衛生の動向　厚生労働統計協会
参考書・参考文献	授業中に適宜指示します。
評価方法	筆記試験（80%）、課題レポート及び授業貢献度（20%）
学習へのアドバイス	成人の発達段階、成人領域に関連する理論等について、学習を深めてください 成人看護学全体のベースになる科目として、復習をしっかり行ってください

科目名	成人看護学方法論Ⅰ			担当教員	鈴木幸枝		
開講年次	1年次	授業形態	講義	時間数	30	単位	1
授業の概要	慢性期の看護：セルフマネジメント・疾患に対する看護の実際						
到達目標	1．慢性的に経過する様々な健康障害をもつ成人の特徴を理解し、対象やその家族に及ぼす影響を理解する。 2．慢性的に経過する様々な健康障害をもつ成人がセルフケアを促進し、その人らしい健康生活を維持するための支援方法を学ぶ。						

回	授業内容	授業方法	自己学修課題（予習・復習）	取組時間	担当者
1	慢性期の看護①	講義	授業の予習・復習	1	鈴木
2	慢性期の看護②	講義	小テスト振り返り 予習：糖尿病 課題プリント	1	鈴木
3	セルフマネジメント	講義	小テスト振り返り	1	鈴木
4	看護の実際～代謝機能障害：糖尿病 病態と症状、治療、セルフマネジメント他	講義	予習：呼吸器 課題プリント	1	鈴木
5	看護の実際～代謝機能障害：糖尿病 看護技術（血糖測定・フットケア）	講義	小テスト振り返り 予習：GW 課題	1	鈴木
6	看護の実際～代謝機能障害：糖尿病 事例検討	GW	事例仕上げ	1	鈴木
7	看護の実際～呼吸機能障害：COPD・気管支喘息 病態と症状、治療、看護、セルフマネジメント他	講義	予習：腎機能 課題プリント	1	鈴木
8	看護の実際～呼吸機能障害：COPD・気管支喘息 看護技術（吸入療法・在宅酸素療法・NPPV 他）	講義	小テスト振り返り 予習：GW 課題	1	鈴木
9	看護の実際～呼吸機能障害：COPD・気管支喘息 事例検討	GW	事例仕上げ	1	鈴木

10	看護の実際～腎機能障害：慢性腎臓病 病態と症状、治療、看護、セルフマネジメント他	講義	予習：循環器 課題プリント	1	鈴木
11	看護の実際～腎機能障害：慢性腎臓病 看護技術（血液透析・腹膜透析他）	講義	小テスト振り返り	1	鈴木
12	看護の実際～循環機能障害：慢性心不全・不整脈 病態と症状、治療、看護、セルフマネジメント他	講義	予習：消化器 課題プリント	1	鈴木
13	看護の実際～循環機能障害：慢性心不全・不整脈 看護技術（心臓リハビリテーション・ 心臓デバイス植え込み患者への教育支援他）	講義	小テスト振り返り	1	鈴木
14	看護の実際～消化機能障害：肝硬変 病態と症状、治療、看護、セルフマネジメント他	講義	授業の予習・復習	1	鈴木
15	看護の実際～消化機能障害：肝硬変 看護技術（インターフェロン療法時の教育支援・ 腹腔穿刺他）	講義	小テスト振り返り	1	鈴木

教科書	ナーシンググラフィカ　成人看護学③　セルフマネジメント　メディカ出版 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学①②③⑤⑥⑧　医学書院　（必要時に指示）
参考書・参考文献	
成績評価の方法	出席状況、筆記試験（小テスト・終講試験）、レポート等で総合的に評価する
学習へのアドバイス	・授業の最後に小テストを実施しますので、授業をしっかりと聞くようにしてください。 ・看護の実際は、すでに履修している解剖生理・病態から振り返り、 看護について学びます。 他の授業で教えていただいた内容について振り返り授業に臨みましょう。

科目名	成人看護学方法論Ⅱ			担当教員	山田眞人・村山由起子		
開講年次	2年次	授業形態	講義	時間数	30	単位	1
授業の概要	急性期看護の特徴と急性期に必要な理論を理解し、急性期にある対象の特徴、疾病や治療、周手術期看護について解説する。急性期にある対象とその家族に対してアセスメントに必要な看護の視点を明確にし、生命の危機的状況や日常生活と異なる状況下での看護を解説する。また、患者・家族の身体・心理・社会的健康問題を取り上げ、急性期医療に関わる医療チームの役割と連携について解説する。						
到達目標	1. 急性期看護の概念とその特徴・課題を明確にし、急性期看護に必要な理論について説明できる。 2. 急性期にある患者・家族の特徴を理解し、対象に応じた基本的な看護のあり方を説明できる。 3. 急性期の看護として、とくに外科治療に伴う周手術期看護および危機的状況に陥った患者の看護について説明できる。 4. 術前から術後に至る過程で起こる健康上の問題をアセスメントし、看護計画を作成できる。 5. 急性期看護における医療チームメンバーの役割・連携と看護の専門性について説明できる。						

回	授業内容	授業方法	自己学修課題（予習・復習）	取組時間	担当者
1	Ⅰ．健康危機状況 1．成人の理解 2．看護方法の検討及び患者の看護	講義	本日の復習	1	山田
2	Ⅱ周手術期におこる生体の変化 1．外科的侵襲から回復期の生体反応及び外科的侵襲の種類	講義	本日の復習	1	山田
3	Ⅲ急性期看護概論 1．急性期看護の特徴と課題 2．急性期の主要症状とメカニズム	講義	本日の復習	1	山田
4	4．周手術期看護の特徴と課題 5．術前・術中・術後の看護の目標 6．手術を受ける患者・家族の特性 7．急性期特有の看護理論	講義	本日の復習	1	村山
5	Ⅳ肺切除術を受ける患者の看護 1．肺がんの特徴・検査・治療 2．術前のアセスメント、術後合併症のリスクアセスメント、合併症予防と看護	講義	本日の復習	1	村山
6	Ⅴ消化・吸収障害のある患者の看護 Ⅰ．消化器系（食道～大腸）の構造と機能 2．腫瘍の病因・分類・治療・検査 3．術前・術後の看護・アセスメント	講義	本日の復習	1	村山
7	Ⅵ胃切除術を受ける患者の看護 Ⅰ．胃がんの分類・検査・治療 2．術前のアセスメント、術後合併症のリスクアセスメント.合併症予防と看護	講義	本日の復習	1	村山
8	Ⅶ道再建術を受ける患者の看護 食道がんの分類・検査・治療 術前のアセスメント、術後合併症のリスクアセスメント、合併症予防と看護	講義	本日の復習	1	村山
9	Ⅷ胸部（乳腺）の手術を受ける患者の看護 乳腺の疾患について 術前・術後の看護・アセスメント 術後に起こりやすい障害と指導	講義	本日の復習	1	村山
10	Ⅸ循環器の障害のある患者の看護 心臓の構造と機能 健康障害の特徴と治療の特徴 心臓カテーテルによる検査と治療時の看護	講義	本日の復習	1	村山
11	Ⅹ経皮的冠動脈インターベンション（PCI）を受ける患者の看護 PCIの種類、適応、禁忌 PCI時の看護	講義	本日の復習	1	村山
12	Ⅺ心臓手術を受ける患者の看護 術前のアセスメント、術後合併症のリスクアセスメント、合併症予防と看護	講義	本日の復習	1	村山

	心拍動下冠動脈バイパス術を受ける患者の看護 術前のアセスメント、術後合併症のリスクアセスメント、 合併症予防と看護				
13	XII排便機能障害のある患者の看護 直腸切除術・人工肛門造設術を受ける患者の看護 術前のアセスメント、術後合併症のリスクアセスメント、 合併症予防と看護	講義	本日の復習	1	村山
14	XIII脳神経機能障害のある患者の看護 脳神経系の構造と機能 脳・神経疾患の特徴と治療の特徴 開頭手術適応の疾患と検査	講義	本日の復習	1	村山
15	XIV脳腫瘍・脳動脈瘤摘出術を受ける患者の看護 術前のアセスメント、術後合併症のリスクア セスメント、合併症予防と看護 まとめ	講義	本日の復習	1	村山

教科書	「系看別巻１　臨床外科看護総論」（医学書院） 「系統看護学講座専門 2. 3. 5. 7. 10」（医学書院）
参考書・参考文献	「系看別巻２　臨床外科看護各論」（医学書院）
成績評価の方法	筆記試験（80%）、課題レポート及び授業貢献度（20%）
学習へのアドバイス	解剖生理学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ及び疾病と治療Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅴとの関連性を十分考慮し、学習に臨むことを期待します。

科目名	成人看護学方法論Ⅲ			担当教員	鈴木幸枝		
開講年次	2年次	授業形態	講義	時間数	30	単位	1
授業の概要	回復期における看護：セルフケアの再獲得・リハビリテーション看護・疾患に対する看護の実際						
到達目標	1．回復期における成人の特徴を理解し、対象やその家族に及ぼす影響を理解する。 2．セルフケアが低下した成人の特徴を踏まえ、生活の再獲得・再構築が必要な人への支援方法を学ぶ。 3．リハビリテーションの概念を理解し、リハビリテーションにおける看護の役割と援助方法を学ぶ。						

回	授業内容	授業方法	自己学修課題（予習・復習）	取組時間	担当者
1	回復期における看護①	講義	授業の予習・復習	1	鈴木
2	回復期における看護②	講義	授業の予習・復習	1	鈴木
3	回復期における看護③	講義	復習： 小テスト振り返り	1	鈴木
4	リハビリテーションとは	講義	予習：変形性膝関節症 課題プリント	1	鈴木
5	チームアプローチと看護の役割	講義	チーム医療について レポート作成	1	鈴木
6	看護の実際～変形性関節症	講義	予習：脳卒中 課題プリント	1	鈴木
7	看護の実際～変形性関節症	講義	復習： 小テスト振り返り	1	鈴木
8	看護の実際～脳卒中	講義	予習：関節リウマチ 課題プリント	1	鈴木
9	看護の実際～脳卒中	講義	復習： 小テスト振り返り	1	鈴木
10	看護の実際～関節リウマチ	講義	予習：脊椎損傷 課題プリント	1	鈴木
11	看護の実際～関節リウマチ	講義	復習： 小テスト振り返り	1	鈴木

12	看護の実際～脊椎損傷	講義	予習：ストマ造設 課題プリント	1	鈴木
13	看護の実際～脊椎損傷	講義	復習： 小テスト振り返り	1	鈴木
14	看護の実際～ストマ造設	講義	授業予習・復習	1	鈴木
15	看護の実際～ストマ造設	講義	復習： 小テスト振り返り	1	鈴木

教科書	ナーシンググラフィカ　成人看護学②健康危機状況／セルフケアの再獲得、 ナーシンググラフィカ　成人看護学⑤リハビリテーション看護　メディカ出版 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学①⑤⑦⑩医学書院（必要時に指示）
参考書・参考文献	
成績評価の方法	出席状況、筆記試験（小テスト・終講試験）、レポート等で総合的に評価する
学習へのアドバイス	・授業の最後に小テストを実施しますので、授業をしっかりと聞くようにしてください。 ・看護の実際は、すでに履修している解剖生理・病態から振り返り、 看護について学びます。 他の授業で教えていただいた内容について振り返り授業に臨みましょう。

科目名	成人看護学方法論Ⅳ			担当教員	丸茂ひろみ		
開講年次	2年次	授業形態	講義	時間数	30	単位	1
授業の概要	患者とその家族が体験する長期にわたる治療に伴う苦痛、がんに特徴的な身体的、心理・社会的、霊的苦痛を理解し、がんとの共生を支える看護および緩和ケアを学ぶ.						
到達目標	1．がん・難病をもつ成人、終末期にある成人の特徴を理解し、対象やその家族に及ぼす影響を理解する。 2．がん・難病をもつ成人がセルフケアを促進し、その人らしい健康生活を維持するための看護方法を学ぶ。 3．終末期にある成人の看護方法を学ぶ。						

回	授業内容	授業方法	自己学修課題（予習・復習）	取組時間	担当者
1	Ⅰ　緩和ケア概論　①	講義	p12~29	1	丸茂
2	Ⅰ　緩和ケア概論　②	講義	p29~44	1	丸茂
3	Ⅱ　身体症状とその治療・看護　①	講義	p46~75	1	丸茂
4	Ⅱ　身体症状とその治療・看護　②	講義	p76~103	1	丸茂
5	Ⅱ　身体症状とその治療・看護　③	講義	p104~133	1	丸茂
6	Ⅱ　身体症状とその治療・看護　④	講義	p133~142	1	丸茂
7	Ⅲ　精神症状とその治療・看護	講義	p144~172	1	丸茂
8	Ⅳ　社会的ケア Ⅴ　スピリチュアルケア	講義	P174~198	1	丸茂
9	Ⅵ　意思決定とコミュニケーション	講義	p200~218	1	丸茂
10	Ⅶ　在宅緩和ケア	講義	p220~236	1	丸茂
11	Ⅷ　臨死期のケア	講義	p238~254	1	丸茂
12	Ⅸ　家族ケア	講義	p256~268	1	丸茂
13	Ⅹ　緩和ケアと生命倫理	講義	p270~282	1	丸茂
14	Ⅺ　非がん疾患の緩和ケア	講義	P284~293	1	丸茂
15	まとめ	講義		1	丸茂

教科書	ナーシンググラフィカ　成人看護学⑥　緩和ケア　メディカ出版
参考書・参考文献	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学④⑤⑦⑪　医学書院

成績評価の方法	出席状況、筆記試験、レポート等で総合的に評価する
学習へのアドバイス	緩和ケアは、終末期にある人だけに限らず、がんと診断された人や他の難病などの人々がよりよい生を営むために必要な包括的全人的なチームアプローチによるケアです。看護職者として必要な視点・考え方を学べるよう主体的・積極的な取り組みを期待します。

科目名	成人看護学演習			担当教員	村山由起子、杉山恵子		
開講年次	2年次	授業形態	講義・演習	時間数	30時間	単位	1単位
授業の概要	1. 専門基礎分野の科目（解剖生理学、治療論、薬理学、栄養学、疾病と治療、病理学など）、看護過程、成人看護学方法論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲなどで学んだ知識を統合・活用し看護過程が展開できる。 2. 主体的な学習態度とその方法を習得することができる。						
到達目標	1. 看護過程の基礎知識を想起し,構成要素が説明できる。 2. M.ゴードンの「機能的健康パターン」を用いて,情報を収集・整理することができる。 3. 収集した情報から,「パターンにおける分析の視点」に基づいた情報群や看護問題(看護診断)の手がかりとなる情報群をつくることができる。 4. 看護問題(看護診断)の存在を確認するために,科学的根拠に基づいて,原因・誘因,症状・徴候の有無,成り行き,看護の必要性を導き出すことができる。 5. 各パターンの分析結果を基に、パターン間の関連性をみいだし、患者の全体像を明らかにすることができる。 6. 患者の全体像に基づいて,看護問題(看護診断)を明らかにすることができる。 7. 看護問題(看護診断)の優先度を決定できる。 8. 看護問題(看護診断)について,問題解決のための目標を設定することができる。 9. 看護診断を解決するための看護計画が立案できる。 10. 看護計画に基づいた実践の結果を評価することができる。 11. 必要な学習の準備を整えることができ、グループでの協同作業に積極的に参加し、建設的な意見を述べることができる。						

回	授業内容	授業方法	自己学修課題（予習・復習）	取組時間	担当者
1	① 看護過程演習、学習目的・学習目標・役割等 ② 記録用紙の使い方について ③ 看護過程の基礎知識（定義,学ぶ必要性,プロセスなど）について想起 ④ ゴードンによる『11の機能的健康パターン』のアセスメントツール配布	講義 GW	復習 予習	1	村山 杉山
2	⑤ゴードンによる『11の機能的健康パターン』のアセスメントツールについて説明 ⑥事例説明：1．胃癌の周手術期 事例を読み込み、看護過程記録用紙1：データベース」に記載	講義 GW	復習・予習	1	村山 杉山
3	① 各自で仕上げた病態関連図を基にグループでその事例の病態関連図の仕上げ ② 事例のわからない点について，各自もしくはグループで引き続き学習し，病態や患者の背景,心理状態を理解 ③各自で仕上げたデータベースを基にして、グループワークを活用して、データベースアセスメントをアセスメント記述欄に記述	講義 GW	復習・予習	1	村山 杉山
4	①各自で仕上げたデータベースを基にして、グループワークを活用して、データベースアセスメントをアセスメント、仕上げる	講義 GW	復習・予習	1	村山 杉山
5	①フォーカスアセスメントの作成 フォーカスするパターンを決定し、 アセスメントについてGWを行う。	GW	復習・予習	1	村山 杉山

6	①フォーカスアセスメントの作成 フォーカスするパターンを決定し、 アセスメントについて GW を行う。	講義	復習・予習復習	1	村山 杉山
7	①全体関連図を個人で仕上げる。 看護診断を個人で特定 ②看護計画立案に向けての準備	講　義 GW	復習・予習	1	村山 杉山
8	①全体関連図を個人で仕上げる。 看護診断を個人で特定 ②看護計画立案に向けての準備	講義 GW	復習・予習	1	村山 杉山
9	①看護目標の設定 ②看護計画立案	講義	復習・予習	1	村山 杉山
10	①その後の経過を踏まえ、SOAP について説明 資料配布、その後の経過を考える	講義 GW	復習・予習	1	村山 杉山
11	①SOAP を記載する。 SOAP について、グループで検討する。	講義 GW	復習・予習	1	村山 杉山
12	①評価について説明 事例全体を整理する。	講義 GW	復習・予習	1	村山 杉山
13	①所定の様式に従って「看護過程記録」を整理 ②事例 2 :COPD 増悪期を脱し回復期に向かっている患者の看護について説明	講義 GW	復習・予習	1	村山 杉山
14	事例 2 :COPD 増悪期を脱し回復期に向かっている患者の看護について　アセスメントと看護の視点について	講義	復習・予習	1	村山 杉山
15	看護過程全般に対する説明	講義 GW	復習・	1	村山 杉山

教科書	リンダ J．カルペニート；看護診断ハンドブック最新版　医学書院 疾患別看護過程の展開（第 5 版）、基礎看護技術Ⅰ、このほか配布資料あり
参考書・参考文献	参考図書 マジョリー・ゴードン著、江川隆子訳；ゴードン博士の看護診断アセスメント指針　照林社 検査学、薬学、疾病学、解剖生理学、基礎看護学等で使用したすべての教科書・参考書
学習へのアドバイ	毎回のグループワークの前準備として、個人ワークの課題を出しますので、個々の学習を必ず行

ス	って、授業に参加してください。また、GW を積極的にかつ効果的に実施してください。

科目名	老年看護学概論			担当教員	武森　勢津子		
開講年次	1年次	授業形態	講義・GW	時間数	15時間	単位	1単位
到達目標	1．老年期にある対象の身体的・精神的・社会的機能の特徴を理解できる。 2．高齢者を取り巻く社会の動向と保健・医療・福祉制度の現状がわかる。 3．老年期にある対象の人権および倫理問題を考えることができる。 4．老年看護の特徴を理解し、老年看護に携わる者の責務を考えることができる。						

単元名	学習内容	時間	方法
Ⅰ．老いるということ、老いを生きるということ	1．老いを学ぶ入口 2．老いるということ 　1）加齢と老化 　2）身体的側面の変化 　　高齢者の生理的特徴（老年看護病態・疾患論） 　3）心理的側面の変化 　4）社会的側面の変化 3．老いを生きるということ 　1）老年期とは 　2）老年期の発達課題 　3）老いを生きる人々のまなざし	8	講義とGW
Ⅱ．高齢社会と社会保障	1．高齢社会の統計的輪郭 2．高齢社会における保健医療福祉の動向 　1）高齢者とソーシャルサポート 　2）保健医療福祉システムの構築 　3）高齢者を支える職種と活動の多様化 3．高齢社会における権利擁護 　1）高齢者に対するスティグマと差別 　2）高齢者虐待 　3）身体への拘束 　4）権利擁護のための制度	4	講義とGW
Ⅲ．老年看護の基盤	1．老年看護のなりたち 2．老年看護の役割 3．老年看護に携わる者の責務	4	講義とGW

教科書	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学　医学書院 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護病態・疾患論　医学書院
副読本	
評価方法	筆記試験80%　授業への参加状況・レポート等20%
備考	

科目名	老年看護学方法論Ⅰ			担当教員	伊藤　元子		
開講年次	2年次	授業形態	授業　GW	時間数	30時間	単位	1単位
授業の概要	老年期の「健康」について、加齢による、身体的・精神的・社会的変化を理解し、老年者の「生活」に焦点をあてた看護を考える。						
到達目標	1．老年者の身体的変化を理解し、老年者が健康な生活を送るために必要な援助を考えることができる。 2．高齢者の特徴を踏まえた日常生活援助を考えることができる。						

回	授業内容	授業方法	自己学修課題（予習・復習）	取組時間	担当者
1	高齢者のアセスメント フヘルスアセスメントの基本	講義	㊙p86 ～97 予習：教科書精読 復習：要点まとめ	60分	伊藤
2	高齢者のアセスメント　1 身体の加齢変化とアセスメント	講義	㊙　P97～120 予習：教科書精読 復習：要点まとめ	60分	伊藤
3	高齢者のアセスメント　2 身体の加齢変化とアセスメント	講義	㊙ p 97～120 予習：教科書精読 復習：要点まとめ	60分	伊藤
4	高齢者の日常機能を整える看護 基本動作と環境のアセスメント	講義	㊙　P121～134 予習：教科書精読 復習：要点まとめ	60分	伊藤
5	高齢者の日常機能を整える看護 転倒のアセスメントと看護	講義	㊙　p 134～141 予習：教科書精読 復習：要点まとめ	60分	伊藤
6	高齢者の日常機能を整える看護 廃用症候群のアセスメントと看護	講義	㊙　p 142～146 p 334～338 予習：教科書精読 復習：要点まとめ	60分	伊藤
7	高齢者の日常機能を整える看護 食事に対する看護	講義	㊙　p 146～161 予習：教科書精読 復習：要点まとめ	60分	伊藤
8	高齢者の日常機能を整える看護 排泄に対する看護	講義	㊙　p 161～172 予習：教科書精読 復習：要点まとめ	60分	伊藤
9	高齢者の日常機能を整える看護 清潔の看護	講義	㊙　p 172～185 予習：教科書精読 復習：要点まとめ	60分	伊藤

10	高齢者の日常機能を整える看護 生活リズム	講義	㊙ p 185～198 予習：教科書精読 復習：要点まとめ	60 分	伊藤
11	高齢者の日常機能を整える看護 高齢者とのコミュニケーション	講義	㊙ p 198～213 予習：教科書精読 復習：要点まとめ	60 分	伊藤
12	検査を受ける高齢者の看護 セクシャリティ・社会参加	講義	㊙ 213～224 予習：教科書精読 復習：要点まとめ	60 分	伊藤
13	健康逸脱からの回復を促す看護 発熱・疼痛・掻痒	講義	㊙ P226 ～238 予習：教科書精読 復習：要点まとめ	60 分	伊藤
14	健康逸脱からの回復を促す看護 脱水・嘔吐・浮腫・倦怠感	講義	㊙ 238～248 予習：教科書精読 復習：要点まとめ	60 分	伊藤
15	健康逸脱からの回復を促す看護 褥瘡	講義	㊙ P248～254 予習：教科書精読 復習：要点まとめ	60 分	伊藤

教科書	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護　病態・疾患論
参考書・参考文献	適宜提示
成績評価の方法	筆記試験　80%　小テスト（不定期事前に通達）出席状況・授業態度・提出物 20%
学習へのアドバイス	これからの社会変化において 2025 年問題と言われるように、後期高齢者の増加が見込まれています。日常関わることが少なくなった高齢者ですが、高齢者の総合的な特徴を知関わることで、良い人間関係を築けます。積極的に加齢変化に興味を持ち学んでゆきましょう。

科目名	老年看護学方法論Ⅱ			担当教員	伊藤　元子		
開講年次	2年次	授業形態	授業・GW	時間数	30時間	単位	1単位
授業の概要	老年の特徴を踏まえ、疾病・障がいを持つ老年に高齢者に対する状況・症状別看護の視点を予防を重視した看護の基本を学ぶ。						
到達目標	1. 疾病・障がいを持つ老年の特徴について理解できる。 2. 老年患者の状況別・症状別看護の視点と看護の基本を理解できる。 3. 健康障害に応じた援助方法を理解する。						

回	授業内容	授業方法	自己学修課題（予習・復習）	取組時間	担当者
1	健康逸脱からの回復を促す看護 脳卒中・心不全・糖尿病・慢性閉塞性疾患	講義	㊙P254～263 予習：教科書精読 復習：要点まとめ	60分	伊藤
2	健康逸脱からの回復を促す看護 慢性閉塞性疾患・がん・パーキンソン	講義	㊙P263～269 予習：教科書精読 復習：要点まとめ	60分	伊藤
3	健康逸脱からの回復を促す看護 インフルエンザ・肺炎	講義	㊙P270～275 予習：教科書精読 復習：要点まとめ	60分	伊藤
4	健康逸脱からの回復を促す看護 骨粗鬆症・骨折　他	講義	㊙P275～282 予習：教科書精読 復習：要点まとめ	60分	伊藤
5	認知機能障害のある高齢者の看護1 うつ・せん妄・認知症	講義	㊙P292～316 予習：教科書精読 復習：要点まとめ	60分	伊藤
6	認知機能障害のある高齢者の看護Ⅱ うつ・せん妄・認知症	講義	㊙P292～316 予習：教科書精読 復習：要点まとめ	60分	伊藤
7	検査を受ける高齢者の看護	講義	㊙Ｐ317～326 予習：教科書精読 復習：要点まとめ	60分	伊藤
8	手術を受ける高齢者の看護	講義	㊙Ｐ327～333 予習：教科書精読 復習：要点まとめ	60分	伊藤
9	リハビリテーション・入院治療を受ける高齢者の看	講義	㊙Ｐ334～345 予習：教科書精読	60分	伊藤

	護		復習：要点まとめ		
10	エンドオブライフケア	講義	㊙Ｐ347～358 予習：教科書精読 復習：要点まとめ	60 分	伊藤
11	生活・療養の場における看護 高齢者とヘルスプロモーション 保健医療福祉施設・居住施設における看護	講義	㊙Ｐ359～373 予習：教科書精読 復習：要点まとめ	60 分	伊藤
12	生活・療養の場における看護 治療・介護を必要とする高齢者・家族の看護	講義	㊙Ｐ373～385 予習：教科書精読 復習：要点まとめ	60 分	伊藤
13	高齢者のリスクマネージマント 高齢者と医療安全　災害看護	講義	㊙Ｐ387～406 予習：教科書精読 復習：要点まとめ	60 分	伊藤
14	高齢者の特徴をいかした看護過程の考え方 高齢者と災害看護	講義	㊙Ｐ408～421 予習：教科書精読 復習：要点まとめ	60 分	伊藤
15	老年看護学実習に向けての取り組み まとめ	講義	配布資料 予習：教科書精読 復習：要点まとめ	60 分	伊藤

教科書	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護　病態・疾患論
参考書・参考文献	適宜提示
成績評価の方法	筆記試験　80%。　小テスト（不定期事前に通達）出席状況・授業態度・提出物 20%
学習へのアドバイス	高齢者の健康逸脱から終末期、地域資源など広く学んでいきます。老年看護学概論、老年看護学方法論Ⅰで学習した内容を復習すること。また、高齢者の看護の展開に必要な解剖生理、疾患や日常生活援助等の知識を整理しながら授業に臨んで下さい。」

科目名	老年看護学演習			担当教員	伊藤　元子		
開講年次	2年次	授業形態	講義	時間数	30時間	単位	1単位
授業の概要	生活者として高齢者をとらえるために必要なアセスメントの視点と疾患や障害に対するアセスメントの視点を事例を通じて学ぶ。事例に必要な看護計画を立案し、演習を通して実践・評価を行い高齢者への看護を学ぶ。						
到達目標	1.　老年患者の状況別・疾患別看護の視点を理解できる。 2.　事例を通じて、老年期にある対象の看護過程を展開できる。						

回	授業内容	授業方法	自己学修課題（予習・復習）	取組時間	担当者
1	看護過程演習のガイダンス 看護過程演習 1-①　大腿骨頸部骨折患者 情報の整理	講義 演習	㊫看護過程授業の復習 ㊥事例疾患理解 簡素記録用紙1完成	60分	伊藤
2	看護過程演習 1-②　大腿骨頸部骨折患者 情報の整理　アセスメント	講義 演習	㊥看護記録用紙2を完成させる	60分	伊藤
3	看護過程演習 1-③　大腿骨頸部骨折患者　アセスメント　関連図作成	講義 演習	㊥看護過程記録用紙3・4を記入	60分	伊藤
4	看護過程演習 1-④　大腿骨頸部骨折患者　関連図）	講義 演習	㊥看護過程記録用紙3・4完成	60分	伊藤
5	看護過程演習 1-⑤　大腿骨頸部骨折患者　アセスメントの統合（関連図・看護の焦点の抽出・看護目標）	講義 演習	㊥看護過程記録用紙3・4・5記入	60分	伊藤
6	看護過程演習 1-⑥　大腿骨頸部骨折患者　アセスメントの統合（関連図・看護の焦点の抽出・看護目標）	講義 演習	㊥看護過程記録用紙3・4・5完成	60分	伊藤
7	看護過程演習 1-⑦　大腿骨頸部骨折　看護計画立案	講義 演習	㊥看護過程記録用紙6を完成	60分	伊藤
8	看護過程演習 1-⑧　大腿骨頸部骨折　看護過程の展	講義	記録用紙1～6全	60分	伊藤

	開　意見交換	演習	て完成させ提出		
9	看護過程演習２-①脳血管障害のある高齢者 情報の整理　アセスメント	講義 演習	㊥事例疾患理解 簡素記録用紙１完成	60 分	武森
10	看護過程演習２-②　脳血管障害のある高齢者 アセスメントの統合	講義 演習	㊥看護記録用紙２完成	60 分	武森
11	看護過程演習 2-③　脳血管障害のある高齢者 アセスメントの統合・関連図作成	講義	㊥看護過程記録用紙３・４記入	60 分	武森
12	看護過程演習 2-④　脳血管障害のある高齢者 アセスメントの統合（関連図・看護の焦点の抽出・看護目標）	講義 演習	㊥看護過程記録用紙３・４記入。	60 分	武森
13	看護過程演習 2-⑦脳血管障害のある高齢者 アセスメントの統合（関連図・看護の焦点の抽出・看護目標）	講義 演習	㊥看護過程記録用紙３・４・５完成	60 分	武藤
14	看護過程演習 2-⑧脳血管障害のある高齢者 看護計画の立案	講義 演習	㊥看護過程記録用紙６完成	60 分	武藤
15	まとめ・総括	講義 演習	㊥記録用紙 1～６ 全て完成させ提出	60 分	武森 伊藤

教科書	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護　病態・疾患論
参考書・参考文献	看護診断ハンドブック．医学書院 看護過程授業資料
成績評価の方法	筆記試験　60%　出席状況・授業態度・提出物 40%
学習へのアドバイス	老年の特徴や生活行動モデルを理解し、科学的根拠に基づいたアセスメントと看護計画の立案ができるよう、既習の基礎専門科目、看護専門科目の復習をしっかり行い、グループ

	ワークにおいても主体的な学習態度を期待します。

科目名	小児看護学概論			担当教員	吉田　ゆかり・石井　知亜子		
開講年次	１年次	授業形態	講義	時間数	15 時間	単位	１単位
到達目標	小児の特徴を学び、看護の機能と役割を理解する。						

単元名	学習内容	時間	方法
Ⅰ小児看護の特徴と理念（石井）	１小児看護の目ざすところ ２小児と家族の諸統計 ３小児看護の変遷 ４小児看護における倫理 ５小児看護の課題	2	講義
Ⅱ子どもの成長・発達（吉田）	１成長・発達とは ２成長・発達の進み方（一般的原則） ３成長・発達に影響する因子 ４成長の評価 ５発達の評価	2	
Ⅲ子どもの栄養（石井）	１子どもにとっての栄養の意義 ２子どもと食育 ３食事摂取基準 ４発達段階別の子どもの栄養の特徴と看護	2	
Ⅳ新生児・乳児（石井）	形態的特徴・身体生理の特徴等と養育・看護	2	
Ⅴ幼児・学童（石井）	形態的特徴・身体生理の特徴等と養育・看護	2	
Ⅵ思春期・青年期の子ども（石井）	形態的特徴・生理的特徴等と看護	2	
Ⅶ家族の特徴とアセスメント（石井）	１子どもにとっての家族とは ２家族アセスメント	2	
Ⅷ子どもと家族を取り巻く社会（吉田）	１児童福祉　２母子保健 ３医療費の支援　４予防接種 ５学校保健　６特別支援教育 ７臓器移植法	2	
教科書	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学概論・小児臨床看護総論　小児看護学①　医学書院		
副読本			
評価方法	出席状況・筆記試験 100％		
備考			

科目名	小児看護学方法論Ⅰ			担当教員	梶原　康巨		
開講年次	2年次	授業形態	講義	時間数	30時間	単位	1単位
到達目標	小児の主な疾患の病態・診断・治療について理解できる。						

単元名	学習内容	時間	方法
Ⅰ染色体異常・胎内環境により発症する先天異常 （梶原）	1主な疾患 ・ダウン症候群　18トリソミー症候群　など	３０	講義
Ⅱ新生児の疾患 （梶原）	1主な疾患		
Ⅲ主な疾患 （梶原）	1代謝性疾患 2内分泌疾患 3免疫疾患・アレルギー性疾患・リウマチ性疾患 4感染症 5呼吸器疾患 6循環器疾患 7消化器疾患 8血液・造血器疾患 9悪性新生物 10腎・泌尿器および生殖器疾患 11神経疾患 12運動器疾患 13皮膚疾患 14眼疾患 15耳鼻咽喉疾患 16精神疾患 17事故・外傷		

教科書	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児臨床看護各論　小児看護学②　医学書院
副読本	
評価方法	出席状況・筆記試験100%
備考	

科目名	小児看護学方法論Ⅱ			担当教員	小山　京子		
開講年次	2年次	授業形態	講義	時間数	30時間	単位	1単位
授業の概要	子どもに健康問題が生じた場合は、家族の悲しみやとまどいははかりしれず、より専門的できめの細かい支援が求められる。そのためここでは、子どもを一人の人間として捉え尊重できるよう、主な疾患・症状の看護、子供の状況（環境）や疾病の経過における子どもと家族の看護、子どもの虐待と看護について主に学習していく。						
到達目標	1.小児の状況や疾病の経過における子どもと家族の看護について理解できる。 2.小児の健康障害の特徴を理解し、起こりやすい症状に対する看護が理解できる。 3.主な疾患の病態・診断・治療とそれに伴う看護について理解できる。						

回	授業内容	授業方法	自己学修課題（予習・復習）	取組時間	担当者
1	病気・障害を持つ子どもと家族の看護 子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護	講義	授業内容の復習及び次回の予習	1	小山
2	子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護	講義	授業内容の復習及び次回の予習	1	小山
3	子どもにおける疾病の経過と看護	講義	授業内容の復習及び次回の予習	1	小山
4	子どもにおける疾病の経過と看護	講義	授業内容の復習及び次回の予習	1	小山
5	主な症状の看護 ①不きげん②啼泣③痛み④呼吸困難⑤チアノーゼ	講義	主な症状と看護について（予習・復習）	1	小山
6	主な症状の看護 ⑥ショック⑦意識障害⑧けいれん⑨発熱	講義	主な症状と看護について（予習・復習）	1	小山
7	主な症状の看護 ⑩嘔吐⑪下痢⑫便秘⑬脱水⑭浮腫	講義	主な症状と看護について（予習・復習）	1	小山
8	主な症状の看護 ⑮出血⑯貧血⑰発疹⑱黄疸	講義	主な症状と看護について（予習・復習）	1	小山

9	障害のある子どもと家族の看護 子どもの虐待と看護	講義	主な症状と看護について(予習･復習)	1	小山
10	主な疾患の看護 染色体異常・胎内環境により発生する先天異常とその看護、代謝性疾患と看護	講義	主な疾患と看護について(予習･復習)	1	小山
11	主な疾患の看護 免疫疾患・アレルギー性疾患・リウマチ性疾患と看護 呼吸器疾患と看護	講義	主な疾患と看護について(予習･復習)	1	小山
12	主な疾患の看護 感染症と看護、腎・泌尿器および生殖器疾患と看護	講義	主な疾患と看護について(予習･復習)	1	小山
13	主な疾患の看護 循環器疾患と看護	講義	主な疾患と看護について(予習･復習)	1	小山
14	主な疾患の看護 消化器疾患と看護、悪性新生物と看護	講義	主な疾患と看護について(予習･復習)	1	小山
15	主な疾患の看護 運動器疾患と看護、神経疾患と看護、 事故・外傷と看護	講義	主な疾患と看護について(予習･復習)	1	小山

教科書	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学概論・小児臨床看護総論　小児看護学①　医学書院 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児臨床看護各論　小児看護学②　医学書院
参考書・参考文献	高木永子監修：看護過程に沿った対症看護　第５版　学研
成績評価の方法	出席状況・レポート 40%、筆記試験 60%
学習へのアドバイス	既習の疾患や症状、看護技術等の復習を行って授業に臨むことで、小児特有の疾患や症状に対する看護を理解することができる。授業課題も含め小児看護学実習につながる学習を行っていくことも念頭に置いて授業に臨むこと。

科目名	小児看護学演習			担当教員	石井　知亜子・小山　京子		
開講年次	2年次	授業形態	講義・演習	時間数	30時間	単位	1単位
到達目標	小児の健康障害の特徴を理解し、検査・治療、処置に対する看護が理解できる。 小児の健康上の問題を解決するため、看護過程の展開方法を理解することができる。						

単元名	学習内容	時間	方法
Ⅰ子どものアセスメント（石井）	1アセスメントに必要な技術 ・コミュニケーション　・バイタルサイン　・身体測定 2身体的アセスメント ・一般状態　・眼　・耳　・顔面　鼻　口腔 ・呼吸　・心臓　血管系　・腹部 ・筋　骨格系　・神経系　・生殖器 ・リンパ系　・皮膚　爪　体毛	8	講義 演習
Ⅱ検査・処置を受ける子どもの看護（石井）	1検査・処置総論 2薬物動態と薬用量の決定 3検査・処置各論 ・与薬　・輸液管理 ・抑制　・検体採取 ・罨法　・清潔 ・経管栄養　・排泄 ・呼吸症状の緩和　・救命処置	6	
Ⅲ事例による看護過程の展開（小山）	肺炎の子どものケア	16	
教科書	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学概論・小児臨床看護総論　小児看護学①　医学書院 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児臨床看護各論　小児看護学②　医学書院 看護診断ハンドブック　医学書院		
副読本	高木永子監修：看護過程に沿った対症看護　第5版　学研		
評価方法	出席状況・演習・レポート30%、筆記試験70%		
備考	演習時は白衣着用		

科目名	母性看護学概論			担当教員	山本佐知子		
開講年次	1	授業形態	講義	時間数	15	単位	1
授業の概要	母性看護の基礎となる概念や母性看護を必要とする対象の特徴および母性看護の特徴についての内容を講義やグループワーク、視覚教材等を用いながら学んでいく。						
到達目標	母性看護の概念および対象の特徴を理解し、母性看護の意義と役割を学び、今日的な母性に関する社会問題を倫理に関連して学ぶことができることを目標としている。						

	単元名	学習内容	授業方法	取組時間
1	母性看護の基本となる概念	1 母性とは 2 セクシュアリティ 3 リプロダクティブヘルス/ライツ 4 母性看護における倫理	講義	10
2	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状	1 母性看護の対象を取り巻く環境 (母性看護に関する組織と法律・母性保健統計からみた動向)	講義	5
3		2 母性看護の歴史的変遷と現状① (母性看護の変遷)	講義 DVD	3
4		3 母性看護の歴史的変遷と現状② (母子保健施策からみた現状)	講義 GW	3
5	母性看護の対象の理解	女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化 (生殖器の形態・機能) (妊娠と胎児の性分化)	講義	3
6	女性のライフステージ各期における看護	ライフサイクルにおける女性の健康と看護の必要性 ①思春期　②成熟期　③更年期　④老年期	講義	3
7	リプロダクティブヘルスケア	1 家族計画 2 性感染症とその予防	講義	3

＊課題については、講義内に指示します。

教科書	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学①母性看護学概論　医学書院
参考書・参考文献	国民衛生の動向
成績評価の方法	終講試験 80%、レポート課題と授業への参加状況 20%
学習へのアドバイス	母性看護の対象を取り巻く社会環境について知るために、日頃から新聞を読みニュースをみて興味を持ってください。講義内ではグループワークや DVD などを使用して理解を深めていきます。グループワークでは活発に意見交換して楽しく学ぶことができればよいと思っています。

科目名	母性看護学方法論Ⅰ			担当教員	山本佐知子		
開講年次	2	授業形態	講義	時間数	30	単位	1
授業の概要	正常な妊娠経過や新生児について学習する。妊婦、産婦、褥婦や新生児の観察視点や観察方法、援助の方法について学習していく。						
到達目標	妊娠期・分娩期・産褥期の経過と妊婦・産婦・褥婦および新生児の特徴を理解し、看護の方法を学ぶ						

	単元名	学習内容	授業方法	時間
1	母性看護学方法論概要	母性看護学の特徴	講義	
2	妊娠期における看護	妊娠の経過と保健指導（初期）	講義	
3		妊娠の経過と保健指導（中期①）	講義・DVD	
4		妊娠の経過と保健指導（中期②）	講義・DVD	
5		妊娠の経過と保健指導（末期） ≪妊娠期の看護　確認小テスト、課題≫	講義	5
6	分娩期における看護	分娩の経過	講義	
7		分娩経過のアセスメントと看護	講義・DVD	
8		分娩進行の観察とサポーティブケア	講義・DVD	
9		分娩第１期～第４期の看護実践	講義・DVD	
10	産褥期における看護	産褥の経過	講義	
11		褥婦のアセスメントと看護 ≪産婦・褥婦の看護　確認小テスト、課題≫	講義	5
12	新生児期における看護	新生児の特徴	講義	
13		新生児のアセスメントと看護①	講義・DVD	
14		新生児のアセスメントと看護②	講義	
15		新生児の異常と看護 ≪新生児の看護　確認小テスト、課題≫	講義	5

＊課題内容については、講義内に指示します。

教科書	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学②母性看護学各論　医学書院 看護診断ハンドブック　医学書院
参考書・参考文献	周産期の看護技術第２版　医歯薬出版株式会社
成績評価の方法	終講試験 100％
学習へのアドバイス	正常の妊娠・分娩・産褥の経過や新生児の特徴について学びます。生命の誕生や新しい家族の出発時に看護者として立ち会える事はとてもかけがえのない体験になります。そのような場面において妊娠出産がよりスムーズに進むよう看護するための知識や方法を学んでいきましょう。

科目名	母性看護学方法論Ⅱ			担当教員	横田大介・山本佐知子		
開講年次	2	授業形態	講義	時間数	30	単位	1
授業の概要	正常経過を逸脱した妊産褥婦の看護や、母性におこりやすい生殖器疾患とその看護について学ぶ						
到達目標	１正常経過を逸脱した妊婦・産婦・褥婦の看護を学ぶ ２母性におこりやすい生殖器の疾患とその看護の方法を学ぶ						

回	授業内容	授業方法	自己学修課題（予習・復習）	取組時間	担当者
1～4	妊娠・分娩・産褥の異常	講義	妊娠の異常、産褥の異常、産褥の異常	4	横田
5～8	母性におこりやすい生殖器の疾患	講義	女性生殖器の構造・機能／疾患の理解	4	横田
9	異常のある妊婦の看護①　ハイリスク妊娠　切迫流早産　胎盤の異常	講義	テキスト１．第７章Ⅰ妊娠の異常と看護	1	山本
10	異常のある妊婦の看護②　妊娠高血圧症候群　妊娠糖尿病など	講義	テキスト１．第７章Ⅰ妊娠の異常と看護	1	山本
11	異常のある産婦の看護 胎児機能不全　帝王切開	講義	テキスト１．第７章Ⅱ分娩の異常と看護	1	山本
12	異常のある褥婦の看護	講義	テキスト１．第７章Ⅳ産褥の異常と看護	1	山本
13	児に健康上の問題があるときの褥婦・家族の看護	講義	テキスト１．第７章Ⅲ新生児の異常と看護、Ⅳ産褥の異常と看護	1	山本
14	婦人科外来における看護	講義	テキスト１．第２章　　テキスト２	1	山本
15	婦人科外来における看護／まとめ	講義	テキスト２．	1	山本

教科書	１．系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学②　母性看護学各論　医学書院 ２．系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学⑨　女性生殖器　医学書院
参考書・参考文献	疾患別　看護過程の展開　第５版　学研
成績評価の方法	終講試験 100％
学習へのアドバイス	この科目の前に母性看護学方法論Ⅰで妊産褥婦の正常経過をしっかり学んでおきましょう

科目名	母性看護学演習			担当教員	原田 奈津子・武森　勢津子		
開講年次	2年次	授業形態	講義　演習	時間数	30時間	単位	1単位
授業の概要	母性看護学実習に必要な知識と技術の習得を目指し、講義と実技演習や演習を行いウェルネスの考え方や母性の特徴を捉えた援助方法を身につける。						
到達目標	1．母性看護学の特徴を理解し、母性看護技術の基礎を習得する 2．ウェルネスの考えに基づいた妊婦・産婦・褥婦・新生児の看護展開について理解する						

回	授業内容	授業方法	自己学修課題（予習・復習）	取組時間	担当者
1	妊娠期・分娩期の看護に必要な看護技術 ①腹囲・子宮底長測定　②レオポルド触診法 ③NST装着・判読　④分娩時の環境調整 ⑤産痛緩和の援助 ⑥分娩第1期～第4期における産婦の心理的変化	講義 演習	授業内容の予習･復習	1	原田
2	産褥期の看護に必要な看護技術 ①子宮底長測定　②授乳の介助 ③乳房マッサージ・乳管開通法 ④授乳指導　⑤退院指導	講義 演習	授業内容の予習･復習	1	原田
3	新生児の看護に必要な看護技術 ①出生直後の児の処置　②体重測定 ③バイタルサイン測定・観察　④ミノルタ測定 ⑤計測（頭囲・胸囲・身長）　⑥沐浴 ⑦おむつ交換・更衣　⑧哺乳	講義 演習	授業内容の予習･復習	1	原田
4	演習Ⅰ ①沐浴（おむつ交換・更衣）　②体重測定 ③バイタルサイン測定　④レオポルド触診法 ⑤妊婦計測（腹囲・子宮底）	演習	授業内容の予習･復習 演習レポート	1	原田

5	演習Ⅱ ①沐浴（おむつ交換・更衣）　②体重測定 ③バイタルサイン測定　④レオポルド触診法 ⑤妊婦計測（腹囲・子宮底）	演習	授業内容の予習･復習 演習レポート	1	原田
6	看護過程Ⅰ	講義 演習	授業内容の予習･復習	1	原田
7	看護過程Ⅱ	講義 演習	授業内容の予習･復習	1	原田
8	看護過程Ⅲ	講義 演習	授業内容の予習･復習	1	原田
9	看護過程Ⅳ	講義 演習	授業内容の予習･復習	1	原田
１０	看護過程Ⅴ	講義 演習	授業内容の予習･復習	1	原田
１１	看護過程Ⅵ	講義 演習	授業内容の予習･復習	1	原田
１２	看護過程Ⅶ	講義 演習	授業内容の予習･復習	1	原田
１３	看護過程Ⅷ	講義 演習	授業内容の予習･復習	1	原田
１４	看護過程Ⅸ	講義 演習	授業内容の予習･復習	1	原田
１５	まとめ	講義 演習	授業内容の予習･復習	1	原田

教科書	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学②母性看護学各論　医学書院 看護診断ハンドブック第10版　医学書院
参考書・参考文献	周産期の看護技術第2版　医歯薬出版株式会社
成績評価の方法	出席状況、レポート提出状況、筆記試験等で総合的に評価する
学習へのアドバイス	講義・実技・演習の前に、次回授業内容の事前学習を必ず行うこと 演習時は白衣を着用すること

科目名	精神看護学概論			担当教員	焼山　和憲		
開講年次	1年次	授業形態	講義・演習	時間数	30時間	単位	1単位
到達目標	精神看護学の位置づけ、精神看護学の対象および対象を取り巻く環境、現代社会の特性と問題点を理解するとともに、対象の健康保持・増進および自立的な日常生活を送るための看護の役割、精神保健福祉活動の基本的な考え方について理解する。						

単元名	学習内容	時間	方法
Ⅰ「心のケア」と現代社会	1精神看護とその課題　2精神障害とは 3個別性と普遍性　4精神看護学の基本的な考え方	4	講義 演習
Ⅱ精神の健康と障害	1精神の健康とは　2精神障害の体験 3精神障害のとらえ方	4	
Ⅲ人間の心のはたらき	1人間の心の諸活動 1）人格と気質　2）知能　3）意識と認知機能 4）感情　5）学習と行動　6）心の理論 2心のしくみと人格の発達 3心の危機とストレス	6	
Ⅳ関係のなかの人間	1全体としての家族 1）家族の多様性　2）家族と健康 3）家族内コミュニケーションのゆがみ 4）家族のなかの役割関係　5）システムとしての家族	6	
Ⅴ精神科で出会う人々	1精神を病むことと生きること 2精神症状論と状態像	6	
Ⅵ社会の中の精神障害	1精神障害と治療の歴史 2日本における精神医学・精神医療の流れ 3精神障害と文化 4精神障害と社会学 5精神障害と法制度 6精神科領域で必要な法律と制度 1）権利擁護に関する法律と制度 2）医療を受けるための法律と制度 3）生活を支えるための法律と制度 4）情報のための法律と制度 7法律・制度における課題	4	

教科書	新体系　看護学全書　精神看護学　精神看護学概論・精神保健　メヂカルフレンド社
副読本	
評価方法	出席状況・レポート20%　筆記試験80%
備考	

科目名	精神看護学方法論Ⅰ			担当教員	焼山　和憲　他		
開講年次	2年次	授業形態	講義・演習	時間数	15時間	単位	1単位
到達目標	精神障害の主な原因、症状、診察と検査、治療、看護を理解する。						

単元名	学習内容	時間	方法
Ⅰ精神障害の診断と分類	1診断と疾病分類 2統合失調症 3気分（感情）障害 4神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害 5生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群 6パーソナリティ障害 7器質性精神障害 8てんかん 9知的障害/精神遅滞 10心理的発達の障害 11小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害 12心身症	8	講義
Ⅱ精神科での治療	1精神科における治療 2薬物療法・電気けいれん療法 　1）薬物療法 　①向精神薬とは　②抗精神病薬　③抗うつ薬 　④気分安定薬　⑤抗不安薬　⑥睡眠薬　⑦抗てんかん薬 　⑧抗認知症薬　⑨抗酒薬　⑩精神刺激薬 　⑪コンプライアンスとアドヒアランス 　2）電気けいれん療法（ＥＣＴ） 3精神療法 　1）個人療法　2）集団精神療法　3）家族療法 4環境療法・社会療法	8	

教科書	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　精神看護学①　精神看護の基礎　医学書院
副読本	
評価方法	出席状況10%、筆記試験90%
備考	

科目名	精神看護学方法論Ⅱ			担当教員	君　波　　学		
開講年次	2年次前期	授業形態	講義	時間数	30時間	1　単位	
授業の概要	精神障害の概念、特性、社会における現状と問題を理解し、障害に対する理解を深める。 また、患者理解を深めるための基礎知識を習得する。						
到達目標	1.ライフサイクルにおけるこころの健康問題を理解する。 2.社会の価値規範やしくみがこころの健康に及ぼす影響を理解する。 3.精神保健医療の現状をとらえ、精神看護の役割と機能を理解する。						

回	授業内容	授業方法	自己学修課題（予習・復習）	取組時間	担当者
1回	1．精神の健康とは 2．地域精神保健（入院治療から地域生活支援へ） 3．精神看護とその特殊性	講義	教科書の熟読 講義資料の復習	1	君波
2階	1．ストレスと健康の危機 2．心的外傷 3．リカバリーを支える力『レジリエンス』	講義	教科書の熟読 心理学教科書の参照	1	君波
3回	1．人間の心の諸活動：意識・認知・行動、学習と行動 2．心のカタチ：フロイトとユング、パーソナリティと気質 3．発達：エリクソン、ボウルビィ、マズロー、ピアジェ	講義	教科書の熟読 心理学教科書の参照	1	君波
4階	家族：家族関係・家族問題、家族療法	講義	教科書の熟読	1	君波
5階	人間と集団：グループの歴史、治療としてのグループ	講義	教科書の熟読	1	君波
6回	危機理論・危機モデル、ストレスとコーピング	講義	教科書の熟読	1	君波
7回	1．様々な精神症状 2．精神障がい 1）統合失調症	講義	教科書の熟読 講義資料の復習	1	君波
8回	2）気分障害	講義	教科書の熟読 講義資料の復習	1	君波
9回	3）神経症　4）生理的障害　5）パーソナリティ障害	講義	教科書の熟読 講義資料の復習	1	君波
10回	6）認知症	講義	教科書の熟読 老年教科書参照 講義資料の復習	1	君波
11回	7）依存症　8）てんかん　9）発達障害　10）心身症	講義	教科書の熟読	1	君波
12回	11）DV　12）ひきこもり　13）自傷・自殺　14）虐待	講義	教科書の熟読 講義資料の復習	1	君波
13回	精神科での治療 1薬物治療　　2精神療法　　3ECT、m-ECT	講義	教科書の熟読 講義資料の復習	1	君波
14回	社会の中の精神障がい 1．治療の歴史　2．日本における精神医学 3．精神障がいと文化	講義	教科書の熟読 講義資料の復習	1	君波
15回	4．精神科に関わる法・制度 5．入院医療の形態　6．入院患者の処遇と権利	講義	教科書の熟読 講義資料の復習	1	君波

教科書	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　精神看護学①　精神看護の基礎　医学書院
参考書・参考文献	（参考）新体系看護学全書　精神看護学概論　メヂカルフレンド社
成績評価の方法	筆記試験100%
学習へのアドバイス	講義資料は授業ごとに配布する予定。 授業進行は、パワーポイントを使用し行います。

科目名	精神看護学演習			担当教員	君　波　　学		
開講年次	2年次後期	授業形態	講義・GW	時間数	30時間	1　単位	
授業の概要	全てのライフサイクルにおける人々の精神の健康保持・増進のための精神保健活動について理解するとともに精神障害者及び家族の特徴を総合的に理解し、人権を尊重する立場に立った看護に必要な知識・技術・態度を習得する。						
到達目標	1．精神障害者に対する看護援助について事例展開を通して理解する。 2．自己の振り返りにより自己理解、他者理解ができる。						

回	授業内容	授業方法	自己学修課題（予習・復習）	取組時間	担当者
1回	セルフケア理論 セルフケア理論の概要、オレム看護論	講義	教科書の熟読 講義資料の復習	1	君波
2階	プロセスレコード プロセスレコードの基礎知識と活用	講義	教科書の熟読 講義資料の復習	1	君波
3回	精神領域の看護過程に関して 精神科の特殊性 健康な部分に目を向けたプラン作成	講義	教科書の熟読	1	君波
4階	統合失調症の紙上事例展開① 情報の分類、問題点の抽出、事例展開	GW	統合失調症に関して 紙上事例の分析	1	君波
5階	統合失調症の紙上事例展開② 情報の分類、問題点の抽出、事例展開	GW	紙上事例の分析	1	君波
6回	統合失調症の紙上事例展開③ 情報の分類、問題点の抽出、事例展開	GW	紙上事例の分析	1	君波
7回	統合失調症の紙上事例展開④ グループ発表	GW	発表準備	1	君波
8回	うつ病の紙上事例展開① 情報の分類、問題点の抽出、事例展開	GW	うつ病に関して 紙上事例の分析	1	君波
9回	うつ病の紙上事例展開② 情報の分類、問題点の抽出、事例展開	GW	紙上事例の分析	1	君波
10回	うつ病の紙上事例展開③ 情報の分類、問題点の抽出、事例展開	GW	紙上事例の分析	1	君波
11回	うつ病の紙上事例展開④ グループ発表	GW	発表準備	1	君波
12回	境界性人格障害（BPD）の紙上事例展開① 情報の分類、問題点の抽出、事例展開	GW	BPDに関して 紙上事例の分析	1	君波
13回	境界性人格障害（BPD）の紙上事例展開② 情報の分類、問題点の抽出、事例展開	GW	紙上事例の分析	1	君波
14回	境界性人格障害（BPD）の紙上事例展開③ 情報の分類、問題点の抽出、事例展開	GW	紙上事例の分析	1	君波
15回	境界性人格障害（BPD）の紙上事例展開④ グループ発表	GW	発表準備	1	君波

教科書	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　精神看護学①　精神看護の基礎　医学書院 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　精神看護学②　精神看護の展開　医学書院
参考書・参考文献	
成績評価の方法	出席率、授業参加態度、提出した事例３例にて評価
学習へのアドバイス	精神科実習においてもっとも遭遇しやすい症例２例と、最も困難であろう症例１例の事例展開を行い、本実習に備える事を目的とする。また、精神科においては特に、チームワークが必要となるため、グループワークを通してリーダーシップ、メンバーシップを修得できるよう学習を行なって頂きたい。

科目名	成人看護学実習Ⅰ			担当教員	鈴木　幸枝		
開講年次	2年次	授業形態	臨地実習	時間数	90時間	単位	2単位

実習目的	慢性期にある対象の特徴を理解し、対象がセルフコントロールしながら、その人らしく生活できるよう支援するための基礎的能力を養う。
実習目標	１．慢性期にある対象の特徴を理解し、対象の健康問題を統合的にとらえることができる。 ２．対象に応じた看護過程の展開ができる。 ３．対象に応じてセルフコントロールのための生活指導を行うことができる。 ４．他職種との連携に必要な知識と具体的方法を理解することができる。 ５．看護学生として倫理に基づいた行動ができる。
実習方法	１．実習方法 病院実習（９０時間） 学生１名に対し、受け持ち患者１名。 健康状態や経過、成人期の特徴をふまえて看護過程の展開を行う。 疾病をコントロールしながら生活していく対象の特徴を理解し、セルフケア能力を促進する看護の実際を学ぶ実習。 個々の学生が体験することを、カンファレンスなどを通してグループメンバーで共有する。 ２．実習内容 具体的な実習内容、方法は実習要項参照
評価方法	出席状況・実習態度・実習記録など実習評価項目に沿って総合的に評価

科目名	成人看護学実習Ⅱ			担当教員	鈴木　幸枝		
開講年次	3年次	授業形態	臨地実習	時間数	90時間	単位	2単位

実習目的	急性期にある対象の特徴を理解し、急激な身体侵襲の変化をきたし生命の安全を優先する急性期看護の必要性を理解する。
実習目標	１．急性期にある対象の特徴を理解し、対象の健康問題を統合的にとらえることができる。 ２．急性期にある対象に応じた看護過程の展開ができる。 ３．身体侵襲の状況にある対象の状態に合わせて安全・安楽に援助が実施できる。 ４．日常生活に起こり得る問題を予測し、生活機能の回復と適応への援助及び継続看護について理解できる。 ５．保健医療チームにおける看護師の役割を理解した行動がとれる。 ６．看護学生として倫理に基づいた行動ができる。
実習方法	１．実習方法 病院実習（９０時間） 学生１名に対し、受け持ち患者１名。 健康状態や経過、成人期の特徴をふまえて看護過程の展開を行う。 急激な生体機能の変化を起こした状態にある対象の特徴を理解し、早期回復を促進する看護の実際を学ぶ実習。 個々の学生が体験することを、カンファレンスなどを通してグループメンバーで共有する。 ２．実習内容 具体的な実習内容、方法は実習要項参照
評価方法	出席状況・実習態度・実習記録など実習評価項目に沿って総合的に評価

科目名	成人看護学実習Ⅲ			担当教員	鈴木　幸枝		
開講年次	3年次	授業形態	臨地実習	時間数	90時間	単位	2単位

実習目的	終末期・治癒困難にある対象の特徴を理解し、症状の緩和、QOLの向上にむけた看護実践ができる基礎的能力を養う。
実習目標	１．終末期・治癒困難にある対象の特徴を理解し、対象の健康問題を統合的にとらえることができる。 ２．対象に応じた看護過程の展開できる。 ３．身体的苦痛の緩和への援助が分かる。 ４．治療・処置・検査時の援助が理解できる。 ５．終末期・治癒困難にある対象の生き方を尊重した援助について考えることができる。 ６．対象や家族・医療チームと良い人間関係を築くことができる。 ７．看護学生として倫理に基づいた行動ができる。
実習方法	１．実習方法 病院実習（９０時間） 学生１名に対し、受け持ち患者１名。 健康状態や経過、成人期の特徴をふまえて看護過程の展開を行う。 終末期・治癒困難な状態にある対象の看護の実際を学ぶ実習。 個々の学生が体験することを、カンファレンスなどを通してグループメンバーで共有する。 ２．実習内容 具体的な実習内容、方法は実習要項参照
評価方法	出席状況・実習態度・実習記録など実習評価項目に沿って総合的に評価

科目名	老年看護学実習Ⅰ			担当教員	伊藤　元子		
開講年次	2年次	授業形態	臨地実習	時間数	90時間	単位	2単位

実習目的	1．加齢による機能低下をもつ高齢者に応じた日常生活の看護援助を学ぶ。 2．高齢者の特徴を理解し、保健・医療・福祉システムに関する理解を深める。
実習目標	1．施設の機能と役割を理解する。 2．対象の身体的・精神的・社会的特徴を理解する。 3．対象に応じた、QOLを考慮した、日常生活の看護援助を学ぶ。 4．対象と家族の気持ちを受け止め尊重した態度がとれる。 5．継続看護の重要性を認識し、保健・医療・福祉の連携について理解する。 6．看護学生として倫理に基づいた行動ができる。
実習方法	1．実習方法 特別養護老人ホームまたは介護老人保健施設で１１日間の実習を行う。 この間にデイサービスまたはデイケアの２日間の実習を行う。 実習最終日は学内実習とし、学びの共有を図る。 2．実習内容 具体的な実習内容、方法は実習要項参照
評価方法	出席状況・実習態度・実習記録など実習評価項目に沿って総合的に評価

科目名	老年看護学実習Ⅱ			担当教員	伊藤　元子		
開講年次	3年次	授業形態	臨地実習	時間数	90時間	単位	2単位

実習目的	1．老年期の健康障害の特徴を理解し、対象の健康問題を統合的に理解できる。 2．老年期にある対象の健康障害とそれに伴う諸問題について理解し、対象とその家族に対する援助、看護の展開が生活の視点を考慮してできる。
実習目標	1．老年期にある対象の身体的・精神的・社会的側面の特徴を捉え、対象を理解できる。 2．対象の健康レベルや諸問題を考慮し、生活の視点から看護の展開ができる。 1）対象の健康レベルや発達段階、生活の視点から看護上の問題を明確化し、看護計画を立案できる。 2）対象の個別性や残存機能を生かした援助を、看護計画に沿って安全・安楽に実施できる。 3）実施した看護の展開を振り返り、評価、修正できる。 3．家族援助の重要性を学ぶ。 4．老年看護に必要な保健・医療・福祉の連携について理解できる。 5．看護学生として倫理に基づいた行動ができる。
実習方法	1．実習方法 ・学生１名に対し、受け持ち患者１名、１２日間の実習。 ・健康レベル、高齢者の特徴をふまえて看護過程の展開を行う。 2．実習内容 具体的な実習内容、方法は実習要項参照
評価方法	出席状況・実習態度・実習記録など実習評価項目に沿って総合的に評価

科目名	小児看護学実習			担当教員	小山　京子		
開講年次	3年次	授業形態	臨地実習	時間数	90時間	単位	2単位

実習目的	小児期にある対象と家族を理解し、小児各期の成長・発達段階、さまざまな健康レベルに応じた看護ができる基礎的能力を養う。
実習目標	１．小児各期における対象の成長・発達の特徴を理解する。 ２．健康障害のある小児とその家族に対する看護を考えることができる。 ３．健康障害のある小児の経過・症状・治療・処置を理解し、小児の特徴をふまえた基礎的看護技術ができる。 ４．病気や障害を持ちながら社会生活を送る小児と家族への継続看護の必要性を学び、保健・医療・福祉チームにおける看護師の役割を理解する。 ５．看護学生として倫理に基づいた行動ができる。
実習方法	１．実習方法 保育所実習（30時間） 各クラスにて指導者の指導のもと園児と関わり、日常生活や遊びを通して各月齢・年齢の成長・発達を観察する 病院実習（60時間） 健康を障害された子どもとその家族を対象とした実習 個々の学生が体験することを、カンファレンスなどを通してグループメンバーで共有する ２．実習内容 具体的な実習内容、方法は実習要項参照
評価方法	出席状況・実習態度・実習記録など実習評価項目に沿って総合的に評価

科目名	母性看護学実習			担当教員	原田　奈津子		
開講年次	3年次	授業形態	臨地実習	時間数	90時間	単位	2単位

実習目的	種族保存の機能をもつ母性の特徴を理解し、健全なライフサイクルマタニティサイクルを送るための母性及び新生児の看護に必要な知識・技術・態度を習得する。
実習目標	1．妊婦・産婦・褥婦および新生児の特徴について理解する。 2．妊婦・産婦・褥婦および新生児の特徴と経過・症状・処置を理解し、必要な母性の看護技術が実践できる。 3．ハイリスク及び正常経過から逸脱した妊婦・産婦・褥婦の看護や女性生殖器疾患を持つ対象の看護についてわかる。 4．対象に応じた看護過程の展開ができる。 5．継続看護の必要性を認識し、保健医療福祉チームにおける看護師の役割について理解する。 6．看護師として倫理に基づいた行動ができる。
実習内容	1．実習方法 病棟実習と外来実習（計９０時間） 病棟実習 妊婦・産婦・褥婦・新生児とその家族を対象とした実習 受け持ち対象を中心とした実習（看護過程の展開を含む） 外来実習 実習計画に基づいて指導者の指導のもとに行動 2．実習内容 具体的な実習内容、方法は実習要項参照
評価方法	出席状況・実習態度・実習記録など実習評価項目に沿って総合的に評価

科目名	精神看護学実習			担当教員	君波　学		
開講年次	3年次	授業形態	臨地実習	時間数	90時間	単位	2単位

実習目的	全てのライフサイクルにおける人々の精神の健康保持・増進のための精神保健活動について理解するとともに精神障害者及び家族の特徴を総合的に理解し、人権を尊重する立場に立った看護に必要な知識・技術・態度を習得する。
実習目標	１．精神障害者および家族の抱える問題の特徴について理解する。 ２．精神保健医療システムの特徴について理解し精神の保持・増進のための援助を理解する。 ３．対象にあった日常生活の援助を行い対象との治療的コミュニケーションを図ることができる。 ４．受け持ち患者の看護問題を明確化し計画・実施・評価までの看護過程が展開できる能力を養う。 ５．継続看護の必要性を認識し、保健医療福祉チームにおける看護師の役割について理解する。 ６．看護学生として倫理に基づいた行動ができる。
実習内容	１．実習方法 病棟実習とデイケア実習（計９０時間） 病棟実習 受け持ち患者中心の実習（看護過程の展開） デイケア実習 実習計画に基づき指導者の指導もとに行動する。 ２．実習内容 具体的な実習内容、方法は実習要項参照
評価方法	出席状況・実習態度・実習記録など実習評価項目に沿って総合的に評価

科目名	在宅看護概論			担当教員	福山　由美子		
開講年次	１年次	授業形態	講義	時間数	１５時間	単位	１単位
授業の概要	在宅看護の概念を踏まえ、地域で生活しながら療養する対象と、看護師の役割を学ぶ。						
到達目標	在宅看護の概念および在宅で療養する対象の特徴を理解し、在宅看護の意義と看護師の役割を学び、 在宅療養における、社会的資源法令・制度について理解できる						

回	授業内容	授業方法	自己学修課題（予習・復習）	取組時間	担当者
1	在宅看護の概念 1）在宅看護の背景 2）在宅看護の基盤 3）地域療養を支える採択看護の役割・機能 4）在宅看護を展開するための基本理念 5）在宅看護における倫理	講義	授業内容の復習と次回の予習	1	福山
2	在宅療養者と家族支援 1）在宅看護の対象 2）在宅看護の対象者と在宅療養の成立条件 3）在宅療養の場における家族の捉え方 4）在宅療養者の家族への看護	講義	授業内容の復習と次回の予習	1	福山
3	地域包括ケアシステムにおける在宅看護 1）地域包括システム 2）療養の場の意向に伴う看護 3）地域包括ケアシステムにおける多職種・他機関連携 4）在宅看護におけるケースマネジメント/ケアマネジメント	講義	授業内容の復習と次回の予習	1	福山
4	地域療養を支える制度 1）社会資源の活用	講義	授業内容の復習と次回の予習	1	福山

	2）医療保険制度 3）後期高齢者医療制度 4）介護保険制度 5）生活保護制度 6）障害者に関連する法律 7）難病法 8）子供の在宅療養を支える制度 9）在宅療養者の権利を擁護する制度と社会資源 10）高齢者施策				
6	在宅療養を支える訪問看護 1）訪問看護の特徴 2）在宅ケアを支える訪問看護ステーション 3）訪問看護サービスの展開 4）訪問看護記録	講義	授業内容の復習と次回の予習	1	福山
7	在宅看護における安全と健康危機管理 1）在宅看護における危機管理 2）日常生活における安全管理 3）災害時における在宅療養者と家族の健康危機管理	講義	授業内容の復習と次回の予習	1	福山

教科書	ナーシンググラフィカ　地域を支えるケア　在宅看護論　　メディカ出版
参考書・参考文献	国民衛生の動向
成績評価の方法	試験（７０％）レポート・受講態度（３０％）
学習へのアドバイス	関係法規で学習した内容を復習して、授業に臨んでください。

科目名	在宅看護方法論Ⅰ			担当教員	福山　由美子		
開講年次	２年次	授業形態	授業・GW	時間数	３０時間	単位	１単位
授業の概要	地域で生活しながら療養する対象とその家族の発達段階・健康状態に応じたニーズと、社会資源の活用方法を学ぶ。						
到達目標	１．地域で生活しながら療養する対象およびその家族の特性を理解できる。 ２．地域で生活しながら療養する対象の状況別・病態別看護の視点と看護の基本を理解できる。 ３．地域で生活しながら療養する対象およびその家族の主体性や個別性を尊重した看護を理解できる。						

回	授業内容	授業方法	自己学修課題（予習・復習）	取組時間	担当者
1 2	在宅看護の展開 １）在宅看護の展開のポイント ２）在宅看護過程の展開方法 ３）療養上のリスクマネジメント ４）在宅看護における権利保障	講義	在宅看護概論での学習内容を復習。 授業内容の復習と次回の予習。	2	福山
3 4	在宅看護介入時期別の特徴 ①在宅療養準備期 ②在宅療養移行期 ③在宅療養安定期 ④急性増悪期 ⑤終末期（看取り期） ⑥在宅療養終了期	講義	授業内容の復習と次回の予習。	2	福山
5	脳卒中を起こした患者の在宅療養導入の事例展開	講義	授業内容の復習と次回の予習。	2	福山
7	パーキンソン病の療養者に対する在宅看護の事例展開	講義	授業内容の復習と次回の予習。	2	福山
9	認知症の療養者に対する在宅看護事例	講義	授業内容の復習と次回の予習	2	福山

10	小児の療養者に対する在宅看護の事例展開	講義	授業内容の復習と次回の予習	1	福山
11	COPD の療養者に対する在宅看護の事例展開	講義	授業内容の復習と次回の予習	1	福山
13	独居の療養者に対する在宅看護の事例展開	講義	授業内容の復習と次回の予習	1	福山
14	終末期（がん）の療養者に対する在宅看護の事例展開	講義	授業内容の復習と次回の予習	1	福山
15	統合失調症の療養者に対する在宅看護の事例展開	講義	授業内容の復習と次回の予習	1	福山

教科書	系統看護学講座　　統合分野　　在宅看護論　　医学書院
参考書・参考文献	医療福祉総合ガイドブック　　医学書院
成績評価の方法	試験（７０％）レポートおよび受講態度（３０％）
学習へのアドバイス	在宅看護概論で学習した内容を踏まえて、在宅にて療養する対象の看護を、事例を通して学びます。対象の理解をするために、小児、成人、老年の各領域で学んだ内容を復習する事。また日常生活援助技術の知識も整理しながら授業に臨んでください。

科目名	在宅看護方法論Ⅱ			担当教員	福山　由美子		
開講年次	２年次	授業形態	授業・GW	時間数	３０時間	単位	１単位
授業の概要	在宅における日常生活援助や医療的援助における基本的なアセスメントや在宅で求められる援助技術を学び実践に生かすことができるよう学習する。						
到達目標	１．在宅で療養をする対象に必要な、日常生活援助技術や医療援助の基本を理解できる。 ２．地域で療養する対象の状況別・病態別看護を理解し、基本的なアセスメントができる。 ３．地域で療養する対象およびその家族の主体性や個別性を尊重した看護の実践を理解できる。						

回	授業内容	授業方法	自己学修課題（予習・復習）	取組時間	担当者
1	在宅で看護を過程するにあたっての看護技術 １）在宅看護の活動を支えるコミュニケーション ２）在宅看護を展開するうえで検討すべきポイント	講義	基礎看護技術の復習および、授業内容の復習および予習	2	福山
2	在宅で求められる看護技術 １）呼吸に関する在宅看護技術 ２）食生活・嚥下に関する在宅看護技術 ３）排泄に関する在宅看護技術 ４）移動・移乗に関する在宅看護技術 ５）清潔に関する在宅看護技術 ６）認知機能のアセスメント法と援助技術 ７）在宅におけるエンドオブライフケア	講義	基礎看護技術の復習および、復習および次回の予習	6	福山
8	在宅における医療管理を要する人の看護 １）褥瘡の予防とケア ２）尿道留置カテーテル ３）ストーマ（人工肛門・人工膀胱） ４）経管栄養法（経鼻・胃瘻） ５）在宅中心静脈栄養（HPN） ６）非侵襲的陽圧換気法（NPPV）	講義	授業内容の復習および次回の予習	7	福山

	7）在宅酸素療法（HOT） 8）在宅人工呼吸療法（HMV）と排痰法 9）外来がん治療の支援 10）疼痛緩和				

教科書	系統看護学講座　　統合分野　　在宅看護論　　医学書院
参考書・参考文献	医療福祉総合ガイドブック　　医学書院
成績評価の方法	試験（７０％）レポートおよび受講態度（３０％）
学習へのアドバイス	既習の疾患や症状、看護技術などの復習を行って授業に臨むことで、在宅で療養生活をおくる対象およびその家族への看護を理解することができる。

科目名	在宅看護演習			担当教員	福山　由美子　　赤毛　朋美		
開講年次	2年次	授業形態	講義・演習	時間数	30時間	単位	1単位
授業の概要	地域で生活しながら療養する対象と家族や、その取り巻く環境と状況に応じた在宅看護の実際を学び、在宅の看護過程を展開していく際のポイントやその展開方法を理解する。						
到達目標	1．訪問時に必要な基本的技術と訪問のマナーを理解することができる。 2．地域で療養する対象者の事例を通して在宅看護過程の展開を理解することができる						

回	授業内容	授業方法	自己学修課題（予習・復習）	取組時間	担当者
1	家庭訪問時のマナー	講義 演習	授業内容の復習および次回の予習	1	福山
3	療養する対象者・家族の相談・相談面接技術	講義 演習	授業内容の復習および次回の予習	2	赤毛
4	事例を用いた在宅看護過程の展開 1）呼吸器疾患（COPD）で療養する対象の在宅看護　継続看護　酸素療法時の看護　QOL　地域包括ケアシステム（フォーマル・インフォーマルな支援）日常生活上の留意事項（感染防止・器機の取り扱い）	演習	演習での看護過程の展開	4	福山
8	事例を用いた在宅看護過程の展開 2）神経難病（筋委縮性側索硬化症：ALS）で療養する対象の在宅看護　継続看護　神経系難病の看護　QOL　地域包括ケアシステム（フォーマル・インフォーマルな支援）人工呼吸器装着中の患者の看護　家族への指導技術　コミュニケーション　褥瘡予防　看取り　医療保険制度　難病対策など	演習	演習での看護過程の展開	4	赤毛
12	事例を用いた在宅看護過程の展開	演習	演習での看護過程	4	赤毛

	1）慢性期にある認知症で療養する対象の在宅看護継続看護　認知症の看護　QOL　地域包括ケアシステム（フォーマル・インフォーマルな支援）、日常生活上の留意事項（安全管理など）		の展開		

教科書	系統看護学　統合分野　在宅看護論　　医学書院 必要に応じてプリント配布
参考書・参考文献	看護診断ハンドブック　　医学書院
成績評価の方法	試験（50%）　看護過程、　受講態度(50%)
学習へのアドバイス	事例の看護過程の展開に必要な解剖生理、関係法規、疾患や日常生活援助などの振り返り学習を行い、演習に臨んでください。

科目名	看護管理			担当教員	寺﨑美保子		
開講年次	H31 年度	授業形態	講義	時間数	１５	単位	1
授業の概要	看護ケアや看護サービスのマネジメント、及び看護を取り巻く諸制度など看護管理に必要な知識と技術を学び理解する。						
到達目標	看護管理について基礎知識を習得し、組織の中でマネジメントができるための基礎的能力を身に着ける。						

回	授業内容	授業方法	自己学修課題（予習・復習）	取組時間	担当者
1	Ⅰ　看護とマネジメント 1）看護管理学とは　2）看護におけるマネジメンとは Ⅱ看護ケアのマネジメント 1）看護ケアのマネジメントと看護職の機能	講義	授業までに教科書を読む	2	寺﨑
2	2））患者の権利と尊重　3）安全管理　4）チーム医療 5）看護業務の実践 Ⅲ看護職のキャリアマネジメント	講義	授業までに教科書を読む	2	寺﨑
3	Ⅳ看護サービスのマネジメント 1）看護サービスのマネジメントとは 2）看護サービスの組織化 3）看護サービスの提供のしくみつくり	講義	授業までに教科書を読む	2	寺﨑
4	Ⅳ看護サービスのマネジメント 4）人材、施設・設備環境、物品、情報のマネジント 5）組織におけるリスクマネジメント 6）サービス評価	講義	授業までに教科書を読む	2	寺﨑
5	Ⅴマネジメントに必要な知識と技術 1）　マネジメントとは 2）組織とマネジメント 3）リーダーシップとマネジメント 4）組織の調整	講義	授業までに教科書を読む	2	寺﨑

6	Ⅵ　看護を取り巻く諸制度 1）看護の定義 2）看護職とは 3）医療制度 4）看護政策と制度		授業までに教科書を読む	2	寺﨑
7	1）看護の定義　2）看護職　3）医療制度	講義	授業までに教科書を読む	1	寺﨑
8	1）我が国の安全対策の潮流	講義	授業までに教科書を読む	1	寺﨑

	系統看護学講座　統合　看護管理　看護の統合と実践①　医学書院 必要に応じてプリント配布
参考書・参考文献	系統看護学講座　統合　看護管理　看護の統合と実践①
成績評価の方法	試験７０％　レポート及び討議等の参加、受講態度（３０％
学習へのアドバイス	

科目名	医療安全			担当教員	君波　学		
開講年次	3年	授業形態	講義	時間数	15時間	単位	1単位
授業の概要	国民の医療に対する関心が高まる反面、医療訴訟が増えている現在、患者及び自身を守るためにも必要な知識の習得を目指す。そのため、医療現場における実例などを教材に学習を進める。						
到達目標	1．人間行動とヒューマンエラーの概念を理解する 2．医療事故が発生しないようにリスク感性を習得する 3．チーム医療の一員として、安全を守るための役割を理解する						

回	授業内容	授業方法	自己学修課題（予習・復習）	取組時間	担当者
1回	1．医療安全を学ぶ意義 ①医療安全管理とリスクマネジメントの歴史と動向 ②医療におけるリスクマネジメント ③ヒューマンエラーと行動モデル ④医療職の責務	講義	教科書の予習 講義資料の復習	2	君波
2回	2．医療事故の考え方 ①医療事故と看護業務 ②看護事故の構造 ③看護事故防止の考え方	講義	教科書の予習 講義資料の復習	2	君波
3回	3．業務領域を超えて共通する間違いと発生要因 ①患者間違い ②発生要因	講義	教科書の予習 講義資料の復習	2	君波
4回	4．診療の補助業務に伴う事故防止（1） ①患者に対して「投与する業務」における事故防止 ②注射業務と事故防止 ③注射業務に用いる機器の事故防止	講義	教科書の予習 講義資料の復習	2	君波
5回	④輸血業務の事故防止 ⑤内服与薬業務と事故防止 ⑥経管栄養業務と事故防止	講義	教科書の予習 講義資料の復習	2	君波
6回	5．診療の補助業務に伴う事故防止（2） ①チューブ管理と事故防止	講義	教科書の予習 講義資料の復習	2	君波
7回	6．療養上の世話における事故防止 ①療養上の世話における事故の考え方 ②転倒転落事故防止 ③誤嚥・異食事故防止 ④入浴中の事故防止	講義	教科書の予習 講義資料の復習	2	君波
8回	7．医療安全とコミュニケーション ①事故を防ぐコミュニケーション ②医療チームの一員として取り組むコミュニケーション	講義	教科書の予習 講義資料の復習 試験対策の振返り	2	君波

教科書	系統看護学講座　統合　医療安全　看護の統合と実践②
参考書・参考文献	
成績評価の方法	終講試験　100%
学習へのアドバイス	社会の動きや新聞の医療面などに目を配り、広く情報を収集し、自分が将来勤めるであろう世界を考えながら学習を行って欲しい。

科目名	臨床看護の実践			担当教員	西村 直子		
開講年次	2年次	授業形態	講義・演習	時間数	３０時間	単位	１単位
授業の概要	看護の統合実習に向けて、看護援助に必要な基礎看護学を学ぶ。また、演習では臨床で起こる出来事を題材として、対応できる能力を養う。 履修した基礎分野、専門基礎分野および専門分野の学びを臨地実習での事例検討により統合することで、看護師に求められる実践能力、卒業時の到達目標と到達度を確かなものとする。						
到達目標	１．実践能力と卒業時の到達目標を確認し、計画的に達成することができる。 ２．実習における看護実践の経験から学習課題を明確にし、看護学の学びを統合することができる。						

回	授業内容	授業方法	自己学修課題（予習・復習）	取組時間	担当者
1	事例検討	講義 DVD	授業内容の復習	1	西村
2	事例検討	講義 DVD	授業内容の復習	1	西村
3	事例検討	講義 DVD	授業内容の復習	1	西村
4	次回演習のガイダンス 講義	講義 DVD	授業内容の復習	1	西村
5	優先順位を考慮した看護援助	演習	授業内容の復習	1	西村
6	各領域別での学習：基礎看護学	講義	授業内容の復習	1	西村
7	各領域別での学習：基礎看護学	講義	授業内容の復習	1	西村
8	各領域別での学習：成人看護学	講義	授業内容の復習	1	西村
9	各領域別での学習：成人看護学	講義	授業内容の復習	1	西村
10	各領域別での学習： 老年看護学	講義	授業内容の復習	1	西村
11	各領域別での学習： 小児看護学	講義	授業内容の復習	1	西村
12	各領域別での学習： 母性看護学	講義	授業内容の復習	1	西村
13	各領域別での学習： 精神看護学	講義	授業内容の復習	1	西村
14	各領域別での学習：在宅看護論	講義	授業内容の復習	1	西村
15	各領域別での学習：看護の統合と実践	講義	授業内容の復習	1	西村

教科書	必要に応じてプリント配布 DVD
参考書・参考文献	
成績評価の方法	出席状況・課題・演習を総合的にみて評価する。
学習へのアドバイス	プリントを用いて学習します。

科目名	災害看護と国際看護			担当教員	君波　学　/　西村　直子		
開講年次	3年次	授業形態	講義	時間数	30時間	単位	1単位
授業の概要	日本は火山が点在する国土であり、過去に大規模な災害に何度も見舞われている。従って、私たち看護職が災害に遭遇する可能性は高く、そのような場合、自身に何ができるかを知っておくことは重要であると考えられる。また、災害支援など国際貢献に際する場合も考えられるため、基本的な知識を習得しておく必要がある。						
到達目標	災害を理解し、災害時に看護が果たす役割、災害各期における看護支援活動を理解する。 国際社会においてグローバルな視点に基づき国際的な看護・保健上の問題を理解する。						

回	授業内容	授業方法	自己学修課題（予習・復習）	取組時間	担当者
1回	災害看護の歴史 東日本大震災、その他の災害 災害の定義	講義	教科書の予習と 授業資料の復習	1	君　波
2回	被災地域アセスメント ＣＳＣＡＴＴＴ	講義	教科書の予習と 授業資料の復習	1	君　波
3回	災害サイクルと、それに準じた看護 災害サイクル	講義	教科書の予習と 授業資料の復習	1	君　波
4回	災害サイクルに応じた活動① 急性期・亜急性期における活動	講義	教科書の予習と 授業資料の復習	1	君　波
5回	災害サイクルに応じた活動② 慢性期・復興期における活動	講義	教科書の予習と 授業資料の復習	1	君　波
6回	災害サイクルに応じた活動③ 災害時の自助と共助、災害時への備え	講義	教科書の予習と 授業資料の復習	1	君　波
7回	被災者特性に応じた看護 子供、高齢者、妊産婦、障碍者、精神障碍者 慢性疾患患者、在日外国人	講義	教科書の予習と 授業資料の復習	1	君　波
8回	トリアージの原則 平時におけるトリアージと災害時のトリアージ トリアージの実際	講義	教科書の予習と 授業資料の復習	1	君　波
9回	防災対策の基本 平時における準備の必要性	講義	教科書の予習と 授業資料の復習	1	君　波
10回	災害看護の倫理と法律 多職種の活動と協働	講義	教科書の予習と 授業資料の復習	1	君　波
11回	国際看護に関連する基礎知識	講義 DVD	教科書の予習と 授業資料の復習	1	西　村
12回	グローバルヘルス プライマリーヘルスケア・ミレニアム開発目標	講義 DVD	教科書の予習と 授業資料の復習	1	西　村
13回	世界の健康問題の現状 国際協力の仕組み	講義 DVD	教科書の予習と 授業資料の復習	1	西　村
14回	分化を考慮した看護：異文化看護 日本における文化や制度を考慮した在日外国人への看護の実践：事例検討	講義 DVD	教科書の予習と 授業資料の復習	1	西　村
15回	開発協力と看護 国際救援と看護	講義 DVD	教科書の予習と 授業資料の復習	1	西　村

教科書	看護の統合と実践３　災害看護学・国際看護学　医学書院
参考書・参考文献	
成績評価の方法	災害看護　終講試験 60　％　/　国際看護　40％
学習へのアドバイス	災害看護：授業においてはパワーポイントを使用する。 災害時の活動の基礎を学習する。また、災害時における看護師の役割を学習する。 国際看護：授業においてはプリントを使用する。また DVD にて看護の実際を理解する。

科目名	在宅看護論実習			担当教員	福山　由美子		
開講年次	3年次	授業形態	臨地実習	時間数	90時間	単位	2単位

実習目的	地域及び在宅においての看護活動を通して、地域で生活しながら療養する対象とその家族について理解を深め、そのニーズに応じた看護援助を行うための基礎的能力を養う。
実習目標	１．地域で生活するさまざまなライフステージ・健康レベルにある人々や療養する人々とその家族を総合的に理解する。 ２．地域で生活しながら療養する対象のセルフケアの能力やＱＯＬを考え、そのニーズに応じた看護援助、家族への支援方法がわかる。 ３．地域で生活しながら療養する対象を支えるために、必要な社会資源の活用と、関係職種との連携、継続的な看護の実際を学ぶ。 ４．地域で生活するためのその人らしく生きることの意義について考え、看護観を深める。 ５．看護学生として倫理に基づいた行動ができる。
実習方法	１．実習方法 １）訪問看護ステーション実習 地域及び在宅においての看護活動を通して、地域で生活しながら療養する 対象とその家族について学び、そのニーズに応じた看護援助を行う。 ２）地域保健活動の場における看護の実習 （区役所保健福祉課・福祉事業団・社会福祉協議会）実習 地域保健活動（区役所保健福祉課・福祉事業団・社会福祉協議会）を通して、地域における看護者の役割を見学し体験する。 ＜学内実習＞ 地域保健活動の場における看護での見学体験を通して、知識を深めるために学びの共有を図る。 ２．実習内容 具体的な実習内容、方法は実習要項参照
評価方法	出席状況・実習態度・実習記録など実習評価項目に沿って総合的に評価

科目名	看護の統合実習			担当教員	西村　直子		
開講年次	3年次	授業形態	臨地実習	時間数	90時間	単位	2単位

実習目的	看護管理の実際を知り、看護チームの一員としての体験を通して、チーム医療の実際を理解する。一勤務帯・夜勤実習をとおして、患者を統合的に捉え、一人一人の患者のニーズに合わせた看護を実践できる基礎的能力を習得する。
実習目標	1．看護管理の実際を知ることにより、保健医療福祉チームにおける看護の役割と機能を理解する。 2．チーム医療・他職種との連携の中で、メンバーシップやリーダーシップ及びマネジメント能力を理解する。 3．複数の患者から、優先度の根拠や安全安楽に実践する基礎的能力を理解する。 4．看護倫理に則って判断し、看護専門職としての責任を自覚し行動できる 5．専門職業人になるうえで、将来の看護師としての自己の課題を明確にできる。
実習方法	1．実習方法 病院実習（学内実習を含む） 既習学習を統合するともに、チーム医療・他職種との連携の中で、メンバーシップやリーダーシップ及びマネジメント能力の実習を通して学ぶ。複数患者の看護を優先順位と時間管理を考慮して、基本的知識を身につけ、習得する。専門職業人になるうえで、将来の看護師としての自己の課題を明確にできるように、カンファレンスなどを通してグループメンバーで共有し、学びを図る。 学内実習 学内実習では、今までの知識・技術・態度を統合し、対象の状況に応じた看護を実践する能力を習得する。看護管理、複数患者の受け持つ看護実践、他職種との協働などから、統合実習の振り返りを行い、お互いの学びを共有する。学びを共有することで、卒業後、臨床現場へスムーズに適応していく能力を身につける。 2．実習内容 具体的な実習内容、方法は実習要項参照
評価方法	出席状況・実習態度・実習記録など実習評価項目に沿って総合的に評価